

共有メモリ設定 & バイナリイメージ作成

【CMMDBG】

【共有メモリ設定 & バイナリイメージ作成支援】

第32版

作 成 者	塩野 富教
作 成 日	平成28年12月12日
最終更新日	令和07年01月22日
バージョン	CMMDBG Ver.2.26

目次

共有メモリ設定&バイナリイメージ作成	1
【CMMDBG】.....	1
目次	2
1. はじめに	3
1.1 ソフトの概要	3
1.2 作者への連絡先	3
1.3 取り扱い種別	3
1.4 動作環境	3
1.5 インストール／アンインストール	4
2. 概要	6
2.1 システム概要	6
2.2 システム動作順概要	7
2.3 システム利用手順	8
2.4 チュートリアル	9
3. 操作	19
3.1 起動	19
3.2 設定操作	20
3.3 シーケンス操作	34
3.4 システム管理操作	38
4. 定義	46
4.1 共有メモリ割付定義(共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)	46
4.2 サイト操作割付定義(共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)	49
4.3 設定定義 (パターン変換、変換タイプ)	51
4.4 シーケンス定義	56
4.5 辞書定義	65
4.6 パターン変換定義 (パターン変換)	67
4.7 変換タイプ定義 (変換タイプ)	69
4.8 システム定義	70
5. ファイル／フォルダ構成	71
5.1 フォルダ構成	71
5.2 ファイル構成	73
6. 困った時の対処方法	76

1. はじめに

1.1 ソフトの概要

Windows の共有メモリ(プロセス間でアクセス可能なメモリ)のデータ参照／データ設定、及びバイナリイメージ作成をサポートするツールです。

1.2 作者への連絡先

作者の連絡先メールは、下記の通りです。

tom-shiono@ibc-web.co.jp

弊社のホームページアドレスは、下記の通りです。

<http://www.ibc-web.co.jp/>

1.3 取り扱い種別

本ソフトは、フリーソフト(寄付歓迎)です。

1.4 動作環境

対応 OS は、Windows10/8/7/XP です。

本ソフトは、Win32 アプリケーションです。Windows 32bit/64bit どちらでも動作します。

前提となるソフトは、以下の通りです。

(1) Microsoft Office EXCEL

各種定義ファイルを編集するために必要です。

(2) PDF 閲覧ソフト

CMMDBG 取扱説明書を読むために必要です。

1.5 インストール／アンインストール

1.5.1 インストール

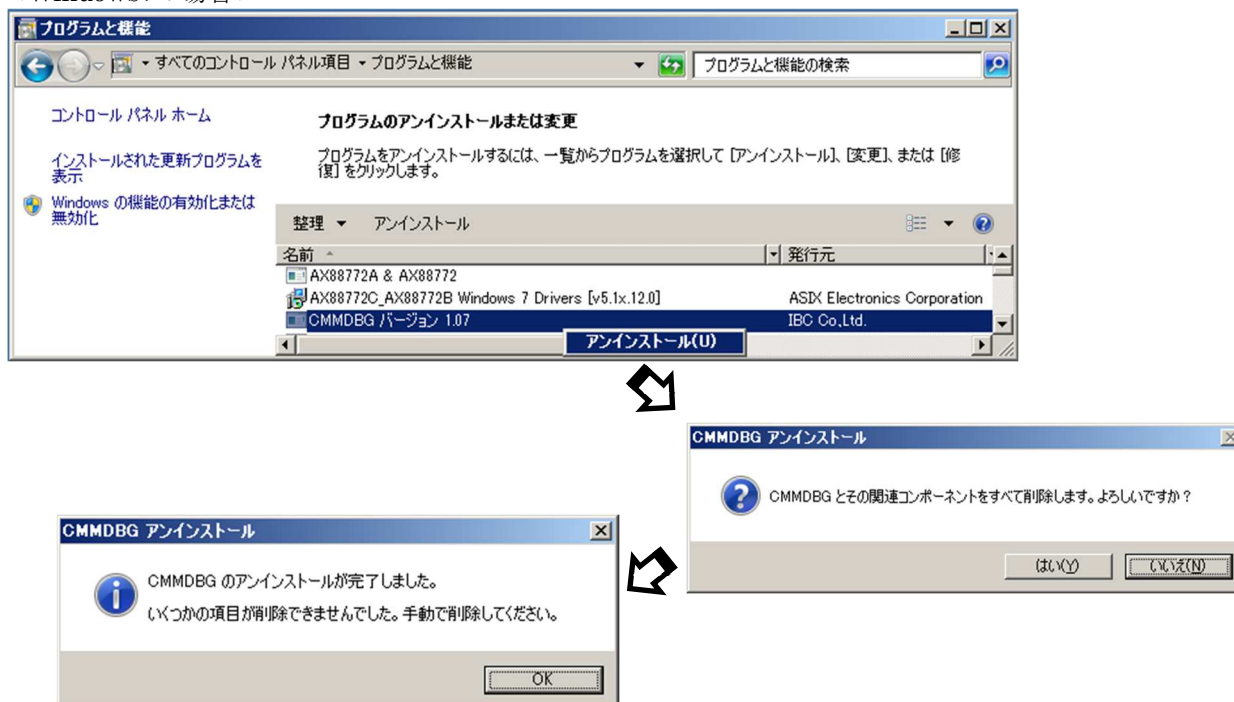
CMMDBG のインストールは、下記の手順で行います。



1. 5. 2 アンインストール

CMMDBG のアンインストールは、下記の手順で行います。

< Windows7 の場合 >



< Windows10 の場合 >



2. 概要

2.1 システム概要

共有メモリデバッグツール(以降、CMMDBG と略す)は、共有メモリのデータ参照／共有メモリへのデータ設定、及びバイナリイメージ作成をサポートするツールです。

本ツールは、共有メモリ割付(最大255個)を行い、それをサイトという単位で管理できます。

対象アプリケーション環境で使用する共有メモリと同じ割付定義を用意したサイトに対して行うことで、共有メモリのデータ参照／データ設定を可能とします。

使用できる機能の概要を下記に示します。

- (1) 共有メモリのデータを参照／設定するために共有メモリの先頭相対アドレス、参照するデータのデータ型、データの表示名を設定の定義 CSV ファイルに定義することで、設定操作画面から共有メモリのデータ参照／データ設定ができます。
→「3. 2. 3 設定操作画面(操作)」を参照のこと。
- (2) 設定／確認の手順をシーケンスの定義 CSV ファイルとして作成し実行することでシーケンス操作画面からシーケンスの内容を実行させることができます。
→「3. 3. 1 シーケンス操作画面(操作)」を参照のこと。
- (3) 共有メモリに設定されている値を共有メモリイメージファイルとして保存することができます。
共有メモリイメージファイルは、下記の3つの方法で読み出すことができます。

【1】 CMMDBG の立ち上げ時に共有メモリイメージファイルを読み込みが指定できます。

→「4. 2 サイト操作割付定義(共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)」を参照のこと。

【2】 操作【共有メモリイメージデータ】において、選択ダイアログにより共有メモリイメージファイル選択して読み出すことができます。

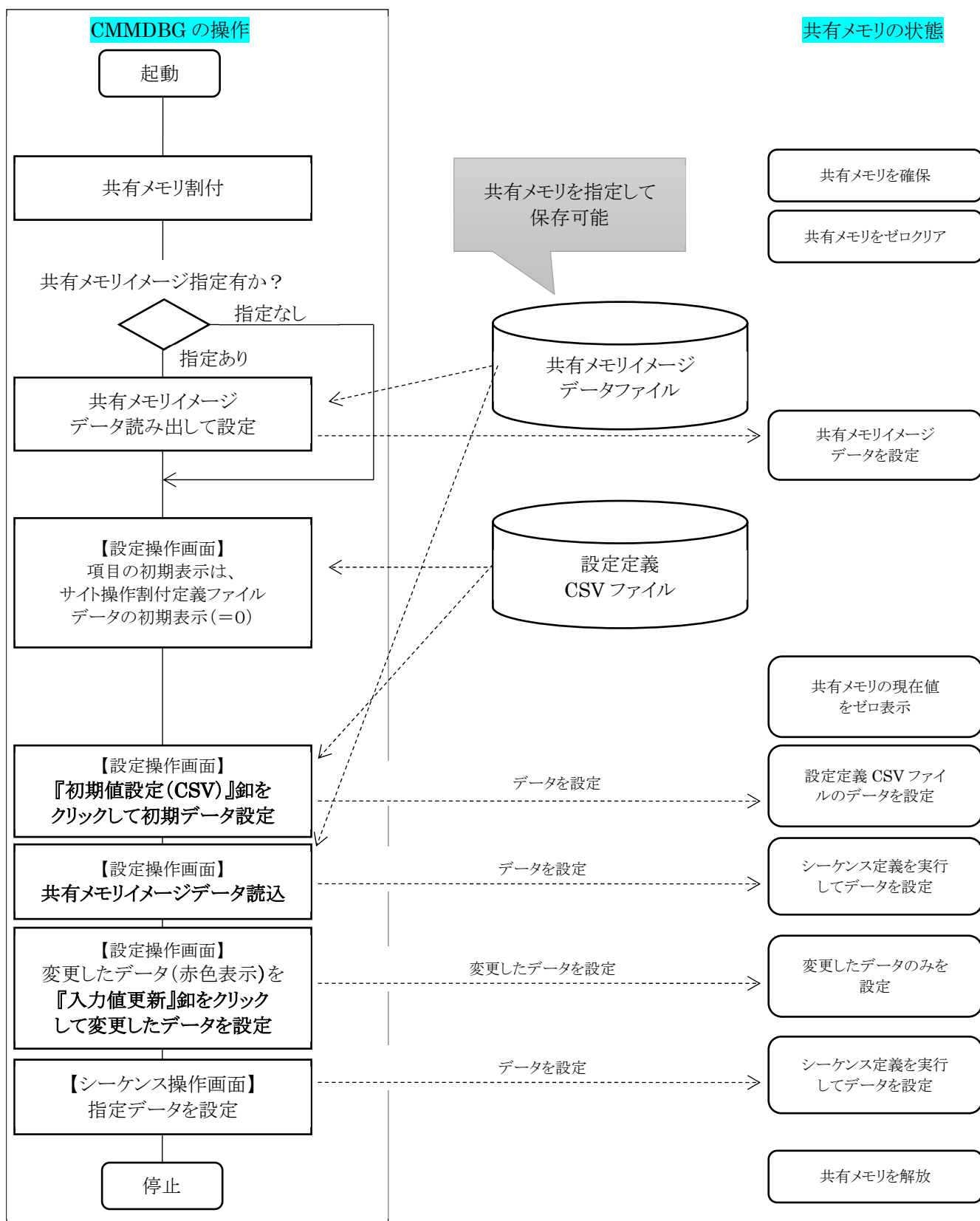
→「3. 2 設定操作」を参照のこと。

【3】 シーケンス操作において、シーケンス定義 CSV ファイルで、`image_set` 文を使用して共有メモリイメージファイルを読み出すことができます。

→「3. 3 シーケンス操作」「4. 4 シーケンス定義」を参照のこと。

2.2 システム動作順概要

CMMDBG 起動後の動作順概要を下图に示す。



2. 3 システム利用手順

No.	機能項目	内容説明
サイト構築作業		
1	サイトの作成	<p>サイトの変更／サイトの新規作成／サイトの COPY による作成／サイトの削除します。</p> <p>サイトの変更によりサイトを切り替えます。ただし、サイト切り替え時は CMMDBG の再起動が必要です。</p> <p>本ツールで使用する対象サイトとなります。</p> <p>詳細は、「3. 4. 1 システム管理操作画面(サイト操作)」を参照ください。</p>
2	共有メモリ割付編集	<p>本ツールの対象サイトがアクセスする共有メモリ割付を行います。</p> <p>共有メモリ割付定義ファイル(共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)を使用して行います。</p> <p>詳細は、「3. 4. 2 システム管理操作画面(共有メモリ割付編集)」を参照ください。</p>
3	設定定義	<p>設定操作画面で使用する設定定義 CSV ファイルの作成を行います。</p> <p>詳細は、「3. 4. 5 システム管理操作画面(定義ファイル編集)」を参照ください。</p> <p>定義については、「4. 3 設定定義」を参照ください。</p>
4	シーケンス定義	<p>シーケンス操作画面で使用するシーケンス定義 CSV ファイルの作成を行います。</p> <p>詳細は、「3. 4. 5 システム管理操作画面(定義ファイル編集)」を参照ください。</p> <p>定義については、「4. 4 シーケンス定義」を参照ください。</p>
5	辞書定義	<p>シーケンス定義を作成する場合にユニークな名前を辞書に登録しておき、その名称を使用してシーケンス定義作成 EXCEL ファイルを作成すれば、辞書から相対アドレスとデータ型を参照し、シーケンス定義 CSV ファイルを作成します。</p> <p>シーケンス定義において、直接、相対アドレスと、データ型を指定するのであれば、不要です。</p> <p>設定定義においても、同様です。</p> <p>詳細は、「3. 4. 5 システム管理操作画面(定義ファイル編集)」を参照ください。</p> <p>定義については、「4. 5 辞書定義」を参照ください。</p>
サイト利用作業		
1	設定操作画面	<p>設定操作画面により指定した共有メモリに値を設定できます。</p> <p>詳細は、「3. 2 設定操作」を参照ください。</p>
2	シーケンス操作画面	<p>シーケンス操作画面により指定したシーケンス定義を実行し、共有メモリへデータ設定できます。</p> <p>詳細は、「3. 3 シーケンス操作」を参照ください。</p>
3	システム管理操作画面	<p>システム管理操作画面によりサイトの作成～定義データの編集を行うことができます。</p> <p>詳細は、「3. 4 システム管理操作」を参照ください。</p>

2. 4 チュートリアル

本チュートリアルに従って、サイト(TUTORIAL)の作成～共有メモリ割付～サイト操作割付定義～シーケンス定義 CSV ファイルの実行をすることで本ツールの基本操作を学ぶことができます。

また、バンドルされている CMM サイトを操作してみることも有効です。

2. 4. 1 サイトを作成し、共有メモリ割付をする

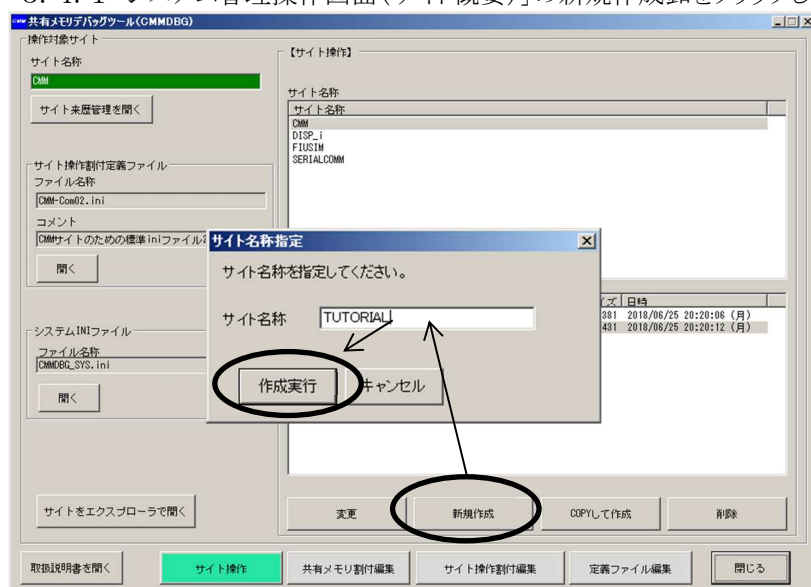
サイトを新規作成する方法について説明します。

新規サイト名称は、TUTORIAL として説明します。

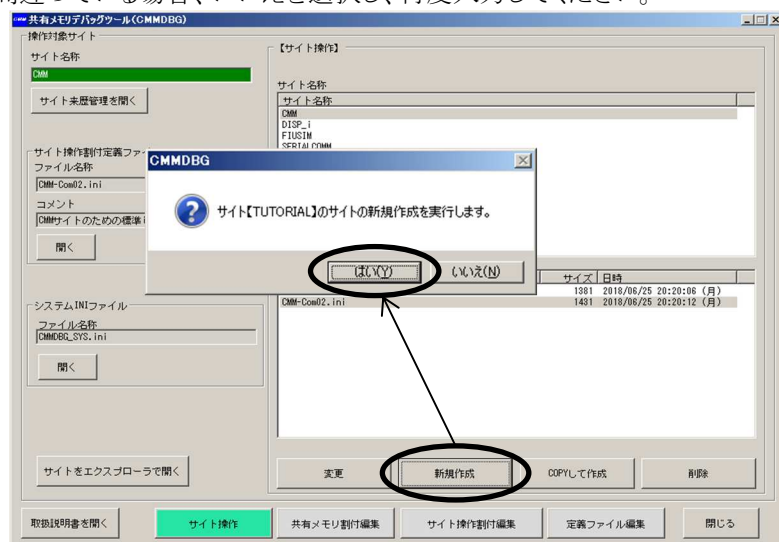
サイトを作成する方法としては、既存のサイトをコピーして、当該サイトの仕様に変更して使用する方法もあります。

サイトの新規作成操作により、新しいサイト(TUTORIAL:任意)を作成する。

- (1) システム管理操作画面(サイト操作)を表示します。
システム管理操作画面において、システム管理操作鈕をクリックしてください。
- (2) サイトの新規作成を行います。
「3. 4. 1 システム管理操作画面(サイト概要)」の新規作成鈕をクリックしてください。

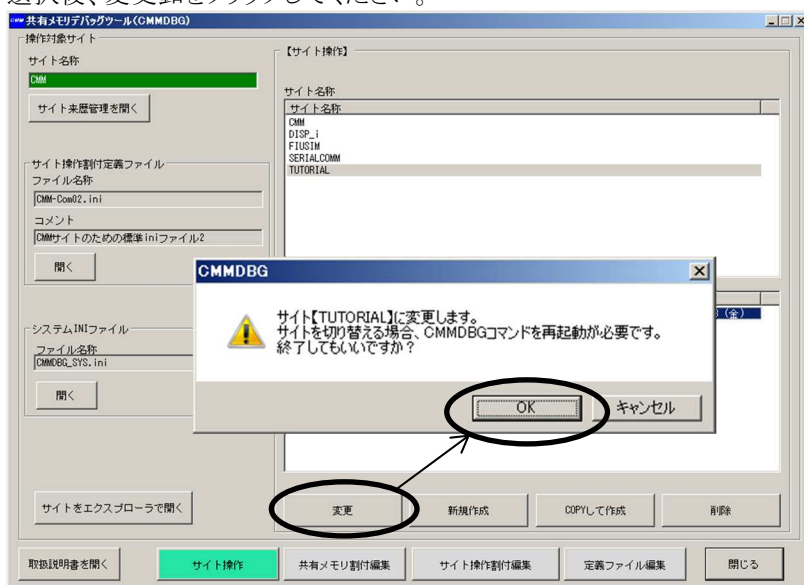


- (3) サイト名称指定ダイアログが表示されますので、新規作成するサイト名称を入力し、作成実行をクリックします。
新規作成サイト名称(TUTORIAL)を入力してください。
サイト名称が正しいか確認するダイアログが表示されます。正しい場合、はいを選択してください。
間違っている場合、いいえを選択し、再度入力してください。



- (4) 操作対象サイトを TUTORIAL に切り替えます。

サイト名称リストで TUTORIAL を選択し、サイト操作割付定義ファイル「_dmy サイト操作定義ファイル.ini」を選択後、変更鈕をクリックしてください。

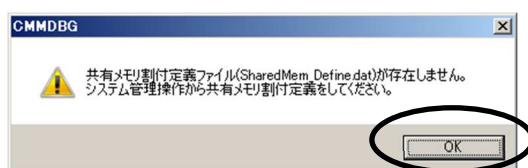


- (5) 操作対象サイトを変更するためには、CMMDBG コマンドの再起動が必要となります。

OK 鈕を選択し、CMMDBG コマンドを一度、終了した後で、CMMDBG コマンドを起動してください。

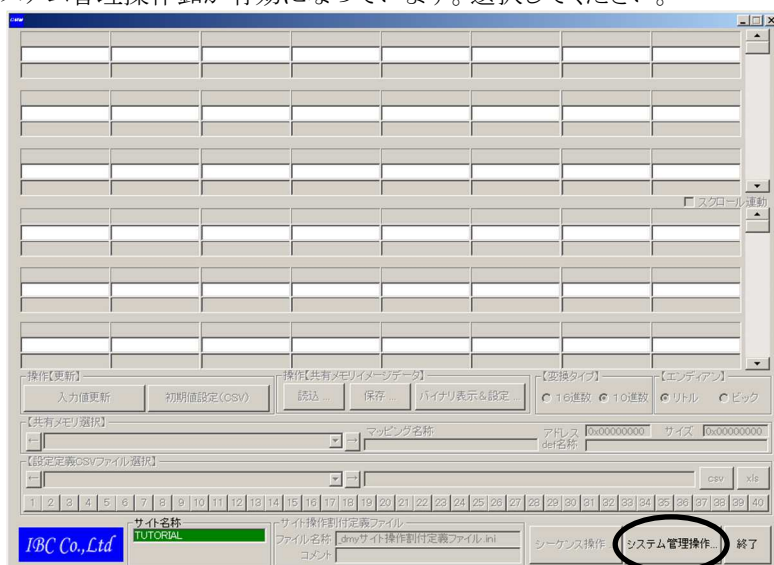
- (6) サイト新規作成後の初回起動時は、下記のメッセージが表示されますが、まだ共有メモリ割付定義をしていないので、これが正常動作です。

OK 鈕を選択してください。



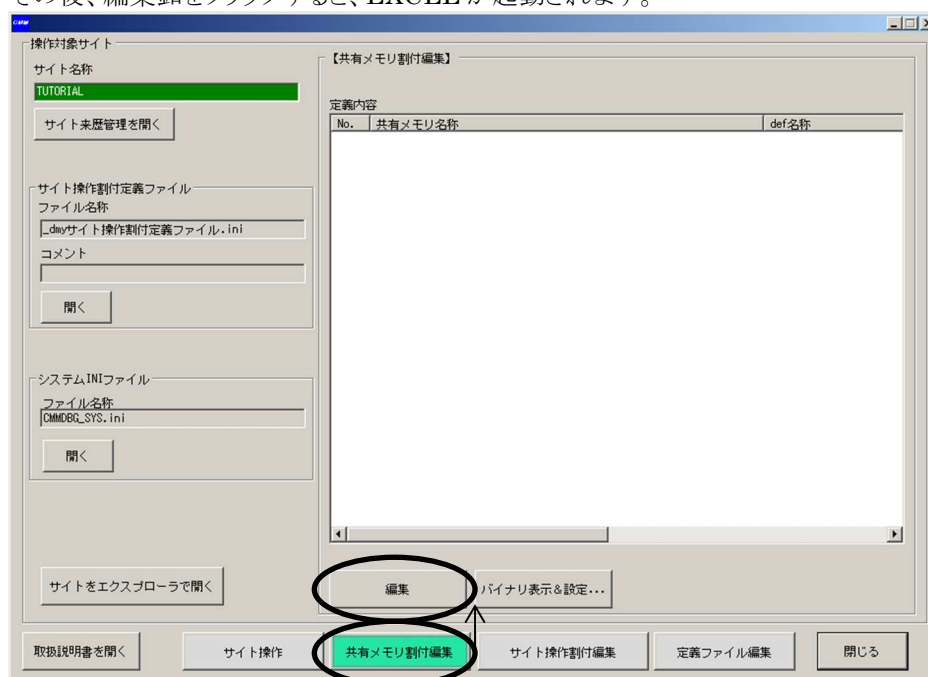
- (7) CMMDBG コマンドの初期表示画面は下図の状態になります。

システム管理操作鈕が有効になっています。選択してください。

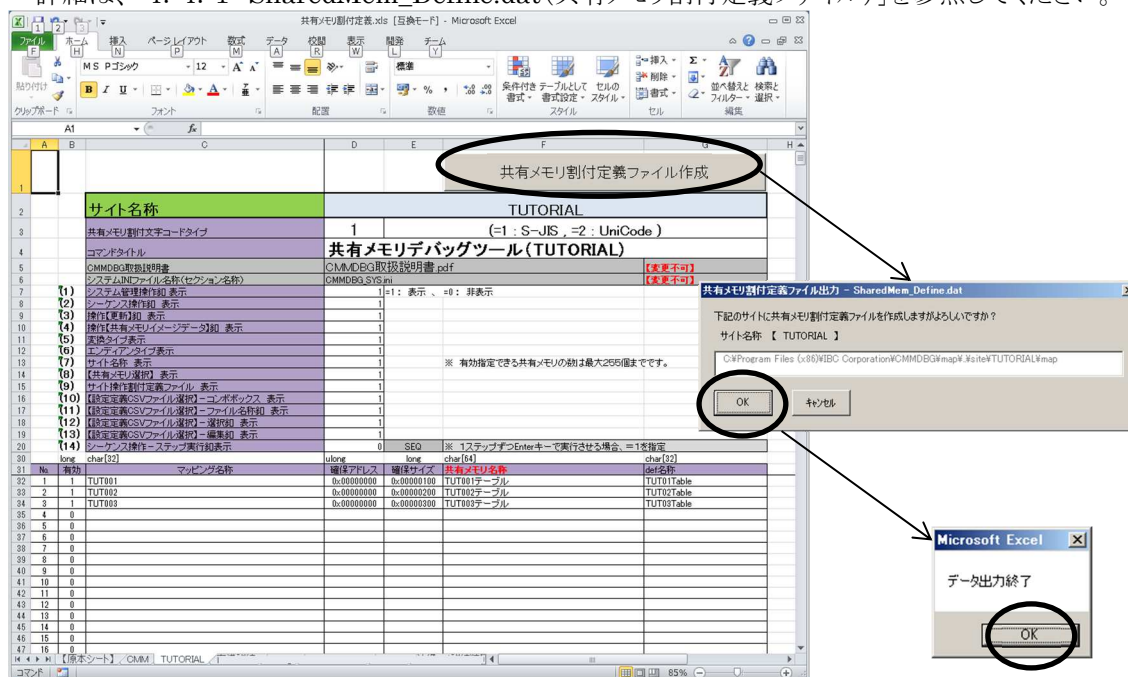


TUTORIAL サイトの共有メモリ割付をする。

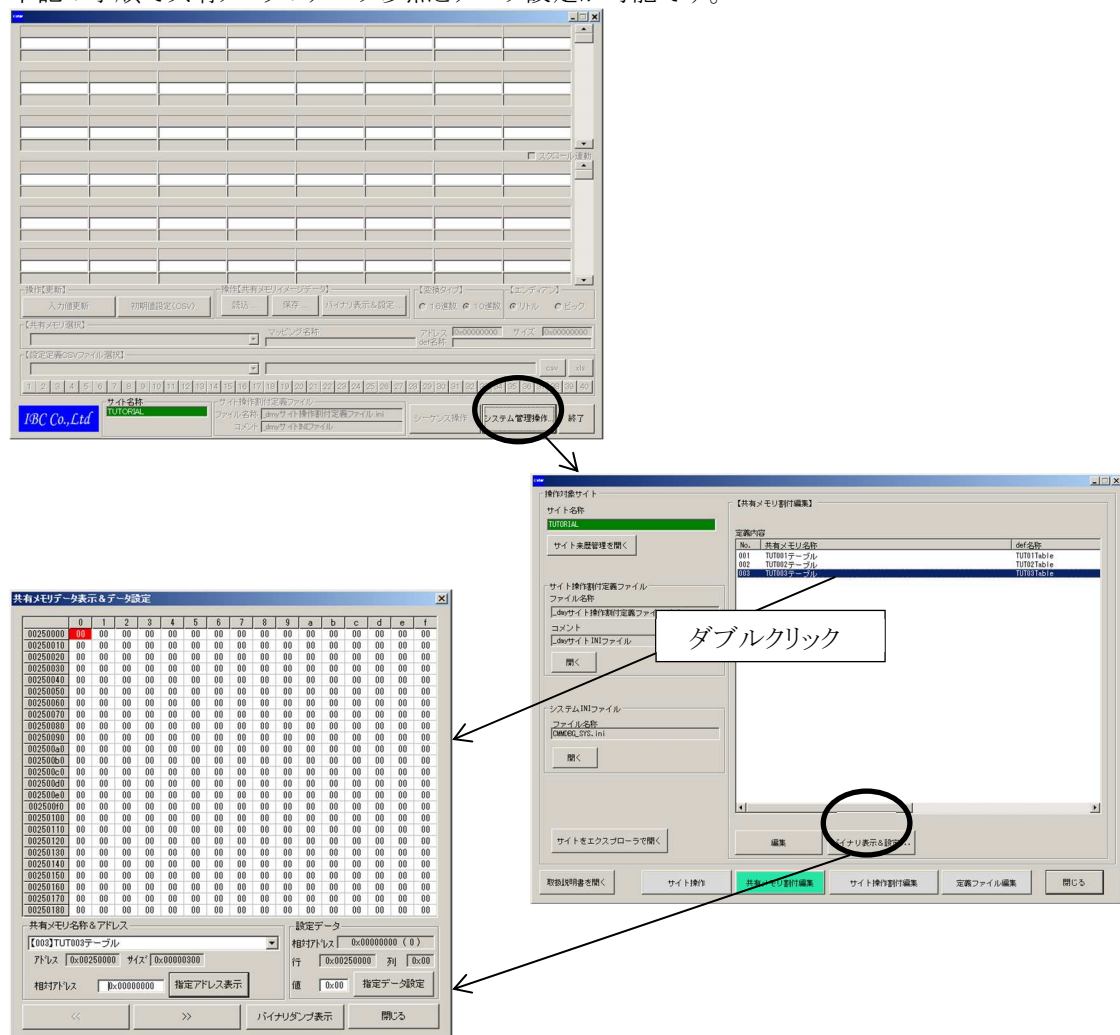
- (1) システム管理操作画面(共有メモリ割付編集)で共有メモリ割付編集をします。
共有メモリ割付編集鉤を選択すると鉤が選択状態(緑色)になります。
その後、編集鉤をクリックすると、EXCELが起動されます。



- (2) 共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls を編集します。
EXCELのシートを TUTORIAL に変更してください。
その後で、下記を入力します。そのまま入力しなくても使用できます。
サイト名称: TUTORIAL
コマンドタイトル: TUTORIAL 試験用
No.、有効、マッピング名称、確保アドレス、確保サイズ、def 名称
などを入力し、共有メモリ割付定義ファイル作成鉤をクリックしてください。
詳細は、「4. 4. 1 SharedMem_Define.dat (共有メモリ割付定義ファイル)」を参照してください。



共有メモリ割付が終わった状態です。



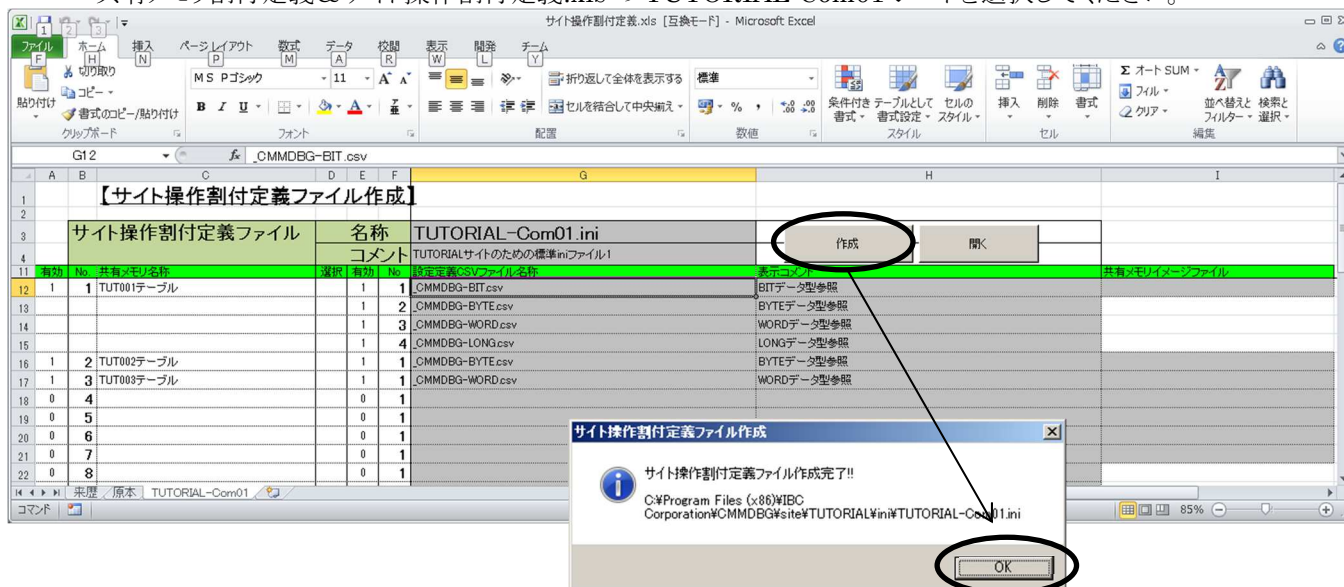
2. 4. 2 サイト操作割付をする

共有メモリ割付を行えば、共有メモリのデータ参照、データ設定が可能となりますが、もっと使いやすくするためにサイト操作割付を行います。

TUTORIAL サイトのサイト操作割付定義ファイルの作成をする。

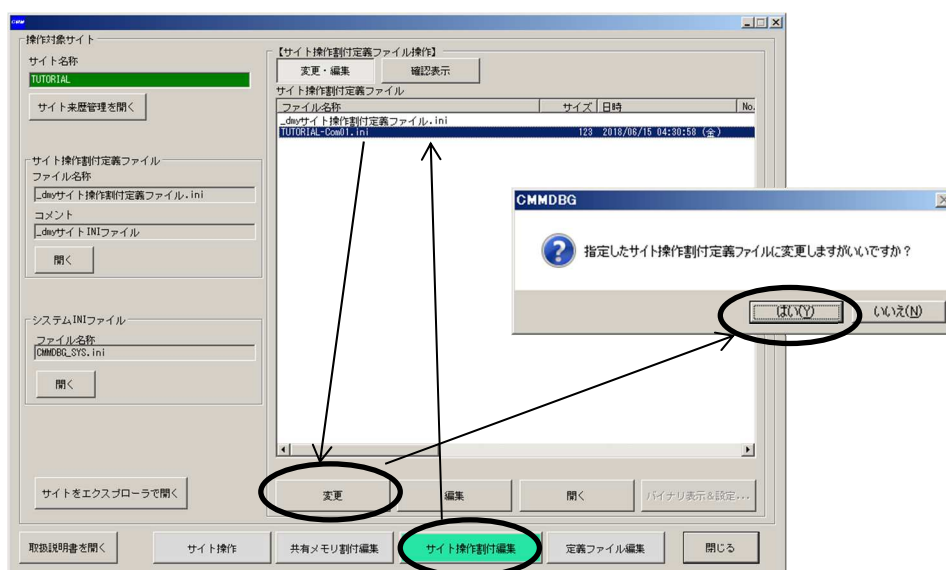
(1) サイト操作割付定義を編集後、作成します。

共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls の TUTORIAL-Com01 シートを選択してください。



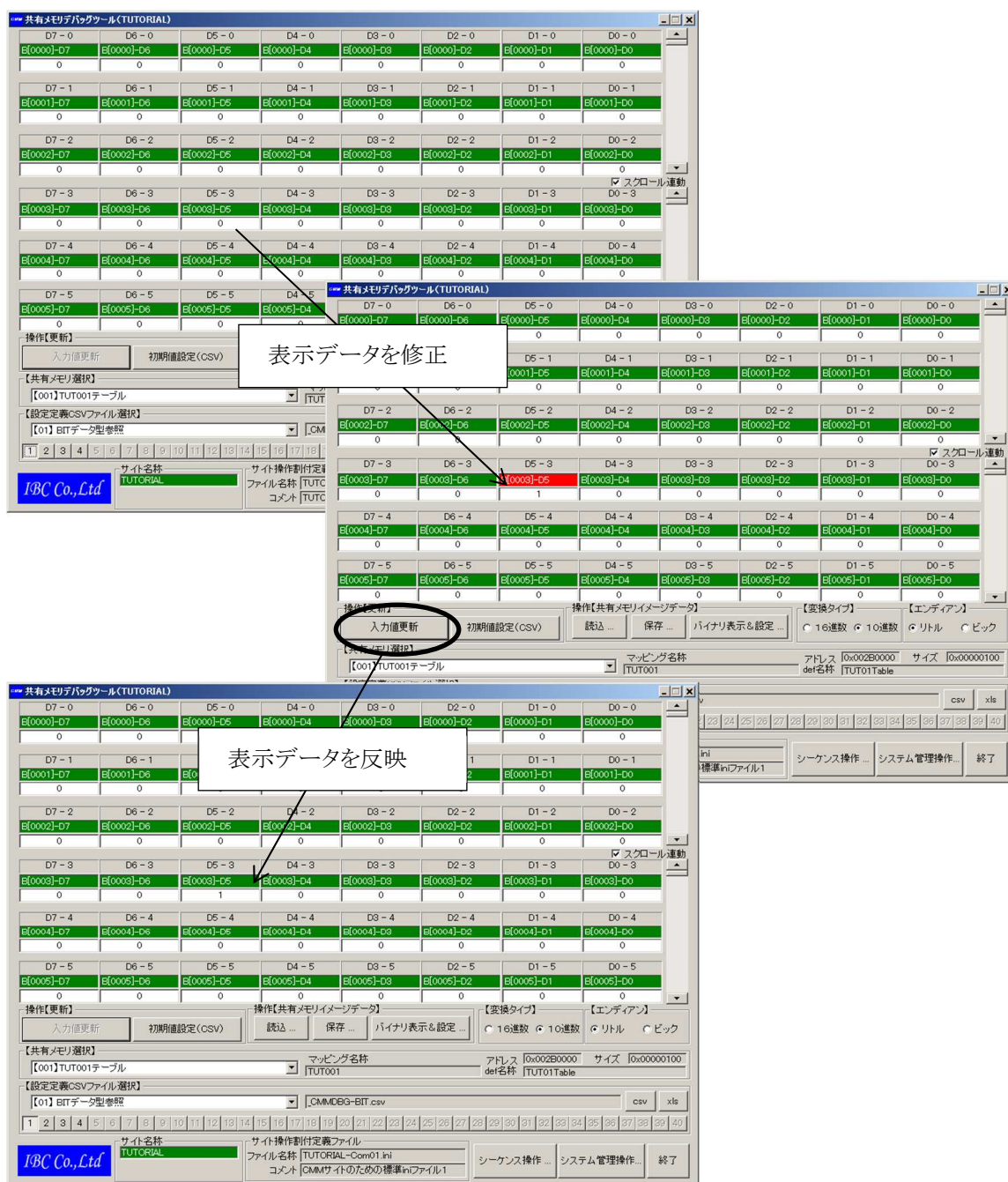
作成したサイト操作割付定義ファイルに切り替えます。

(1) サイト操作割付編集鈕をクリック後、作成したサイト操作割付定義ファイルを選択し、変更鈕をクリックします。



選択したサイト操作割付定義ファイルを実行する。

- (1) 【共有メモリ選択】、【設定定義 CSV ファイル選択】など切替操作、データ設定操作をしてください。
表示データを修正(データを変更すると赤色表示)

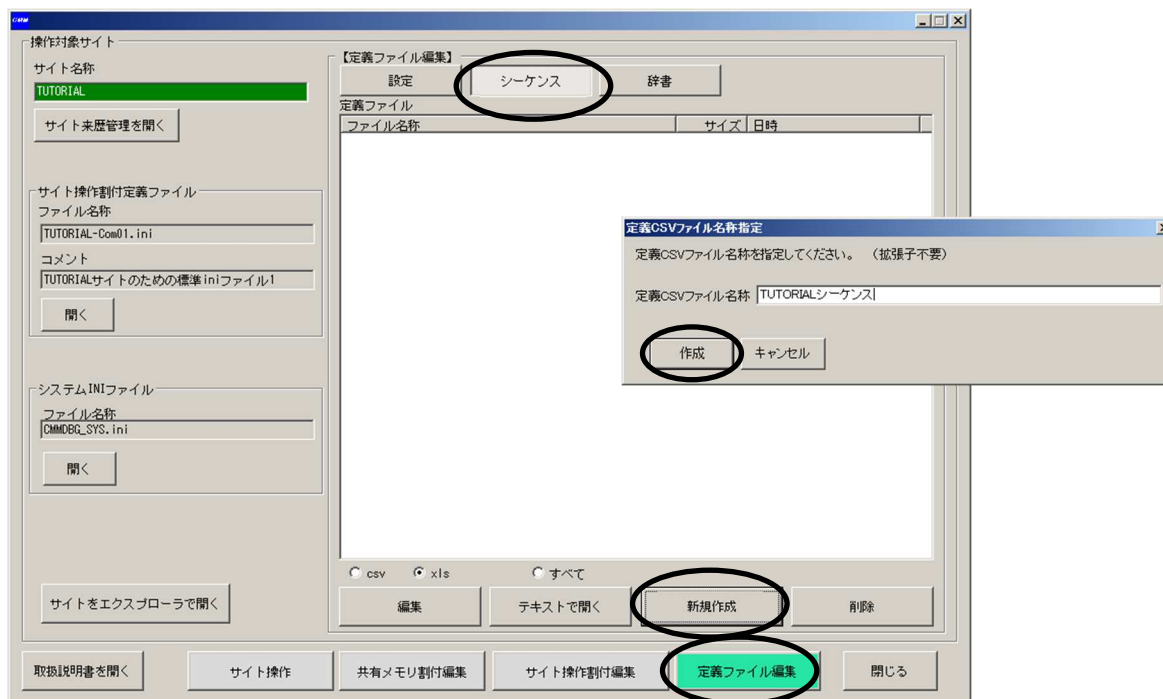


- (2) (1)の操作を実施後、操作【更新】－初期値設定(CSV)鈕をクリックしてください。
設定定義 CSV ファイルの初期値を=0で定義していますので、設定したデータがゼロに戻ります。

2. 4. 3 シーケンス定義 CSV ファイルを作成～実行する

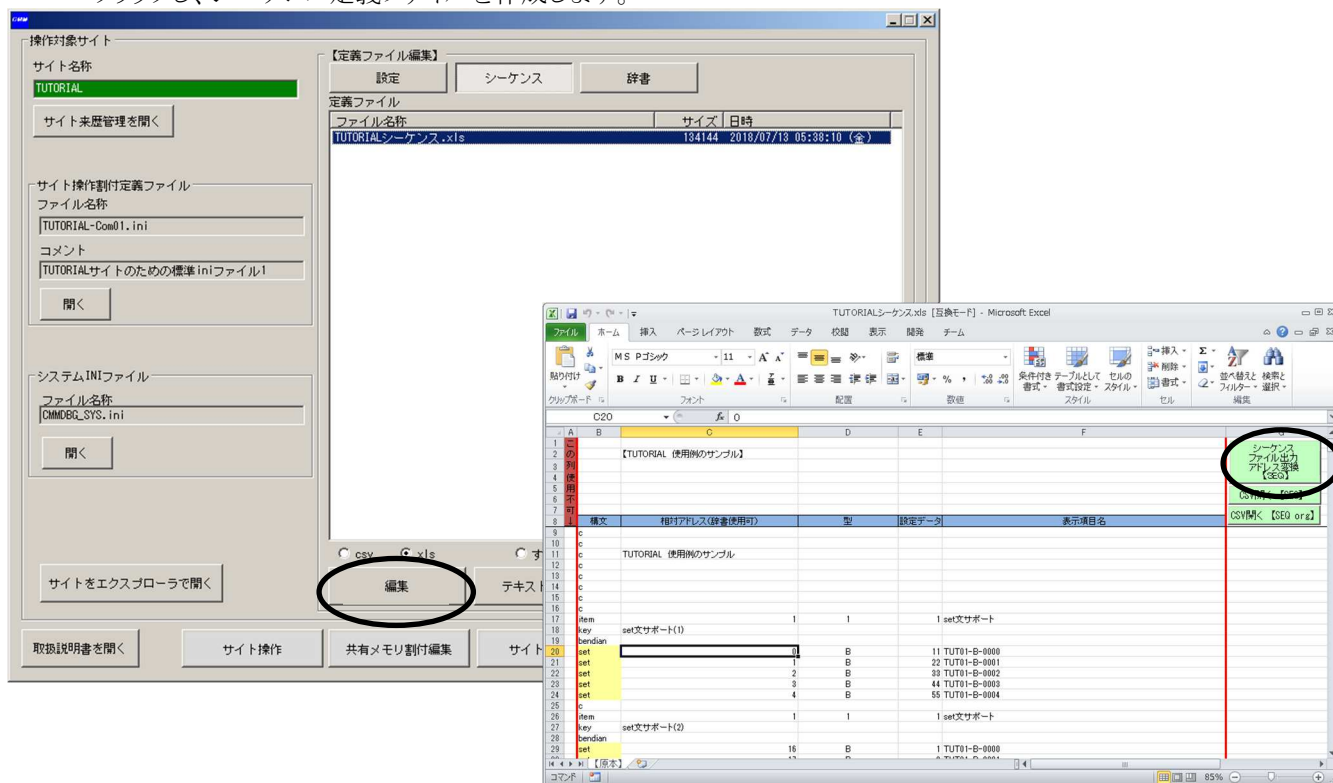
シーケンス定義 CSV ファイルを作成する。

(1) 定義ファイル編集鈕をクリックし、その後、定義ファイルのシーケンス鈕をクリックし、新規作成鈕をクリックします。



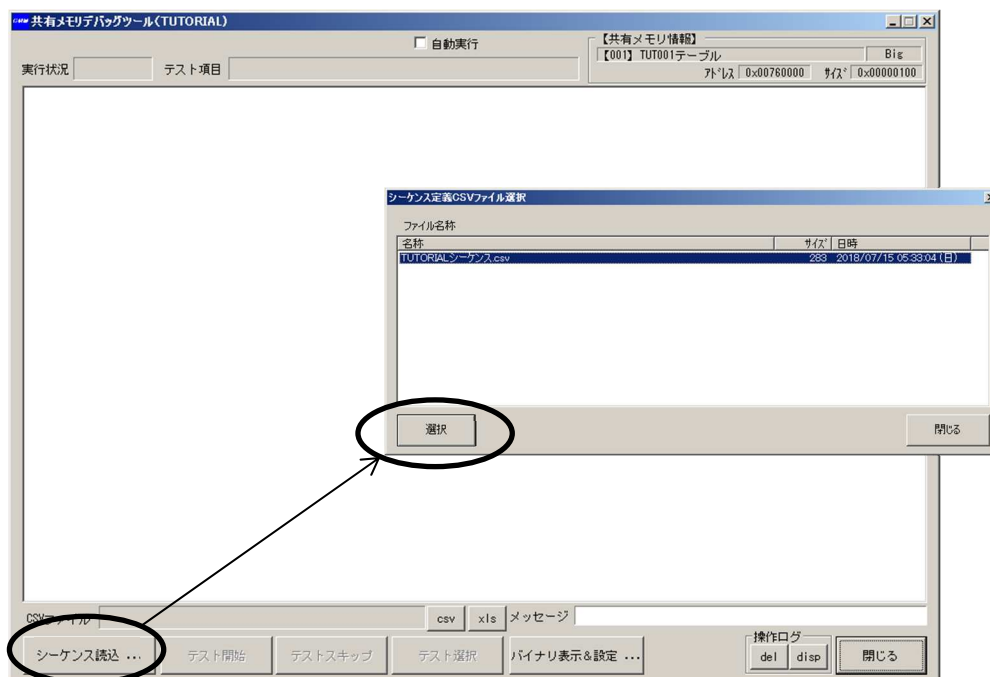
(2) 作成した定義ファイルを選択し、編集鈕をクリックします。

シーケンス定義ファイルは【原本】の状態でも使用できるので、シーケンスファイル出力アドレス変換【SEQ】鈕をクリックし、シーケンス定義ファイルを作成します。

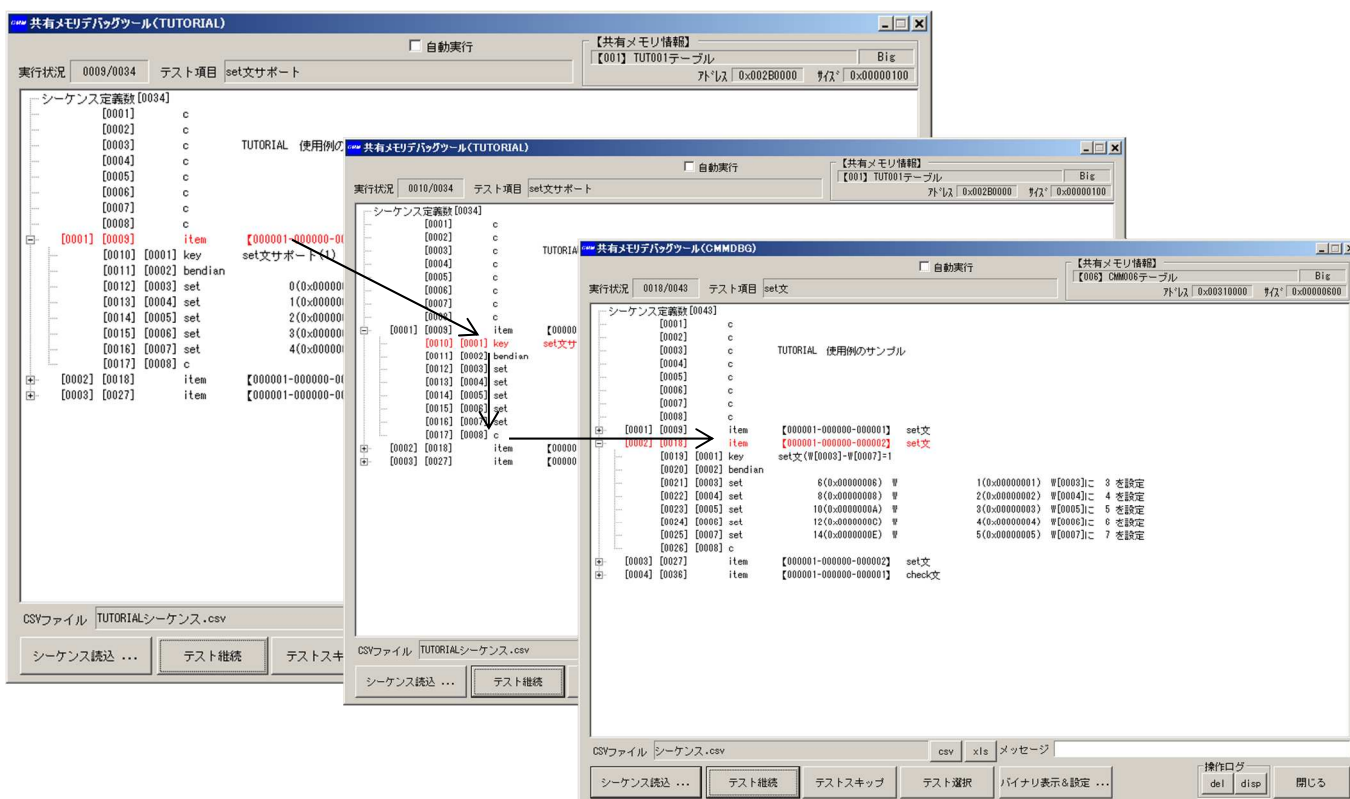


作成したシーケンス定義 CSV ファイルを実行する。

- (1) 設定操作画面に戻り、シーケンス操作鈕をクリックし、シーケンス操作画面を表示します。
作成したシーケンス定義 CSV ファイルを選択します。



- (2) 設定操作画面に戻り、シーケンス操作鈕をクリックし、シーケンス操作画面を表示します。
作成したシーケンス定義 CSV ファイルを選択します。



- (3) テスト開始鈕をクリックすると、次の待ちの箇所まで実行されます。
上記の例では、[0010][0001] key 、次に[0002][0018] item を実行前に停止します。

2. 4. 4 パターン変換とタイプ変換について理解する

パターン変換について確認する

(1) インストール後の CMM サイトのパターン変換を確認する。

【変換タイプ】を10進数⇒16進数に切り替えることでパターン変換、または、タイプ変換が動作します。
 (例)
 パターン変換型 (PB000) は
 0, OFF
 1, ON
 と定義してあるので、数値が=1
 の場合、ON と表示します。

【設定定義 CSV ファイル選択】
【01】_CMMDBG-SAMPLE-001 : パターン変換(システム)の例
【02】_CMMDBG-SAMPLE-002 : パターン変換(ユーザ)の例

- ※ パターン変換は、000～999まで定義できます。(000～099 はシステムで使用)
- ※ パターン変換定義については、「4.6 パターン変換定義(パターン変換定義)」を参照ください。
- ※ パターン変換型については、「4.3 設定定義(パターン変換、タイプ変換)」を参照ください。

タイプ変換について確認する

(1) インストール後の CMM サイトのタイプ変換を確認する。

The image displays two screenshots of the CMMDBG software interface, which is used for setting common memory and creating binary images.

Top Screenshot: The main window is titled "共有メモリ設定 & バイナリイメージ作成 (CMM)". It shows a table of memory blocks with columns for address, value, and type. The "変換タイプ" (Conversion Type) dropdown is set to "16進数" (Hexadecimal). The "エンディアン" (Endianness) is set to "リトル" (Little). The "共有メモリ選択" (Common Memory Selection) dropdown is set to "001] CMM001テーブル".

Bottom Screenshot: The same window is shown, but the "設定定義 CSV ファイル選択" (Setting Definition CSV File Selection) dropdown is set to "04] CMMDBG-SAMPLE-004". The "変換タイプ" dropdown is still set to "16進数".

【設定定義 CSV ファイル選択】

【03】CMMDBG-SAMPLE-003 : タイプ変換(システム)の例

【04】CMMDBG-SAMPLE-004 : タイプ変換(ユーザ)の例

タイプ変換は、000～999まで定義できます。(000～099 はシステムで使用)
 変換タイプ定義については、「4.6 パターン変換定義(パターン変換定義)」を参照ください。
 変換タイプ型については、「4.3 設定定義(パターン変換、タイプ変換)」を参照ください。

3. 操作

3.1 起動

デスクトップにある CMMDBG のショートカットをダブルクリックして起動します。



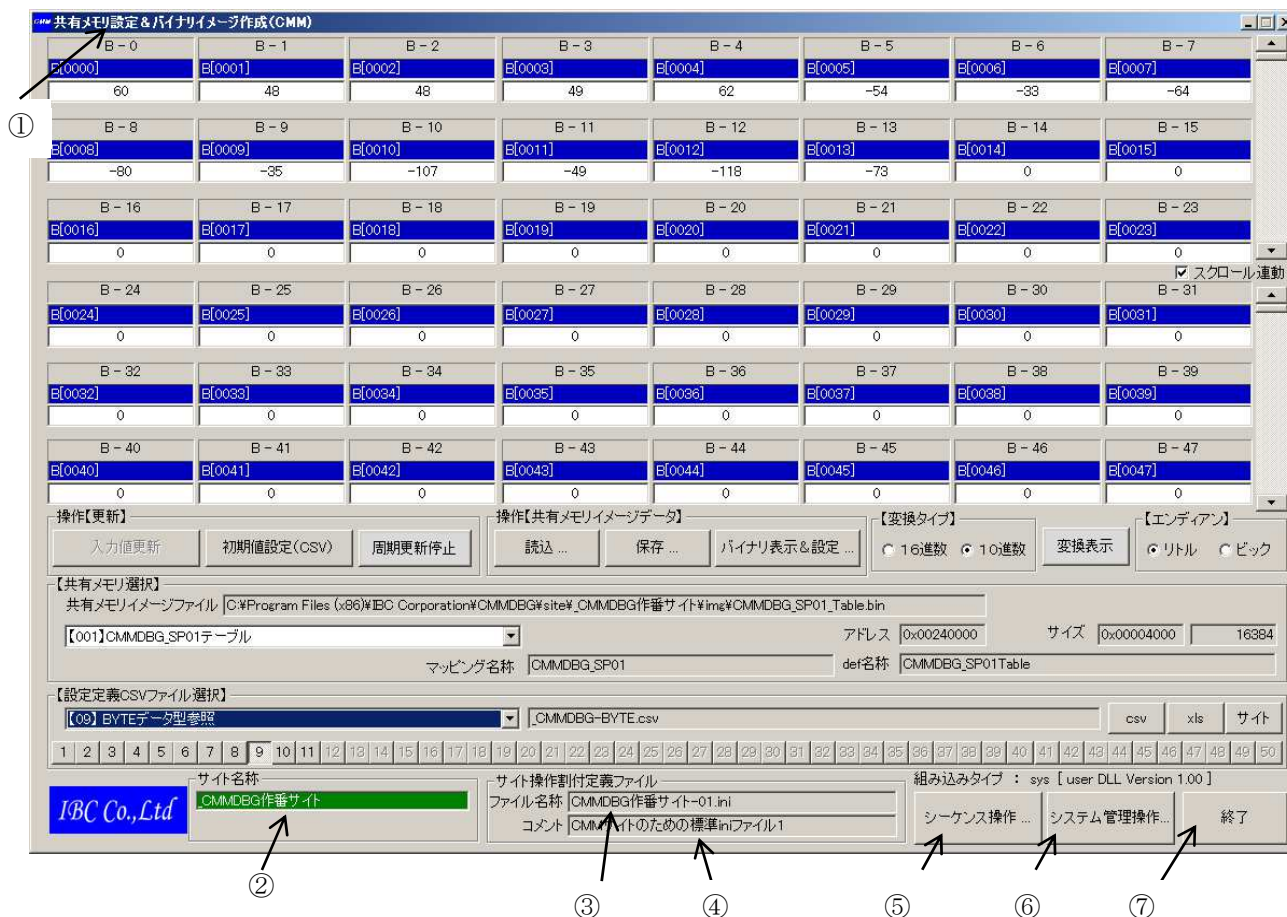
3. 2 設定操作

設定操作は、UI インターフェースで共有メモリにデータ設定を行います。

インストール時には、「CMM」サイトがインストールされますので、すぐに操作可能です。

3. 2. 1 設定操作画面（概要）

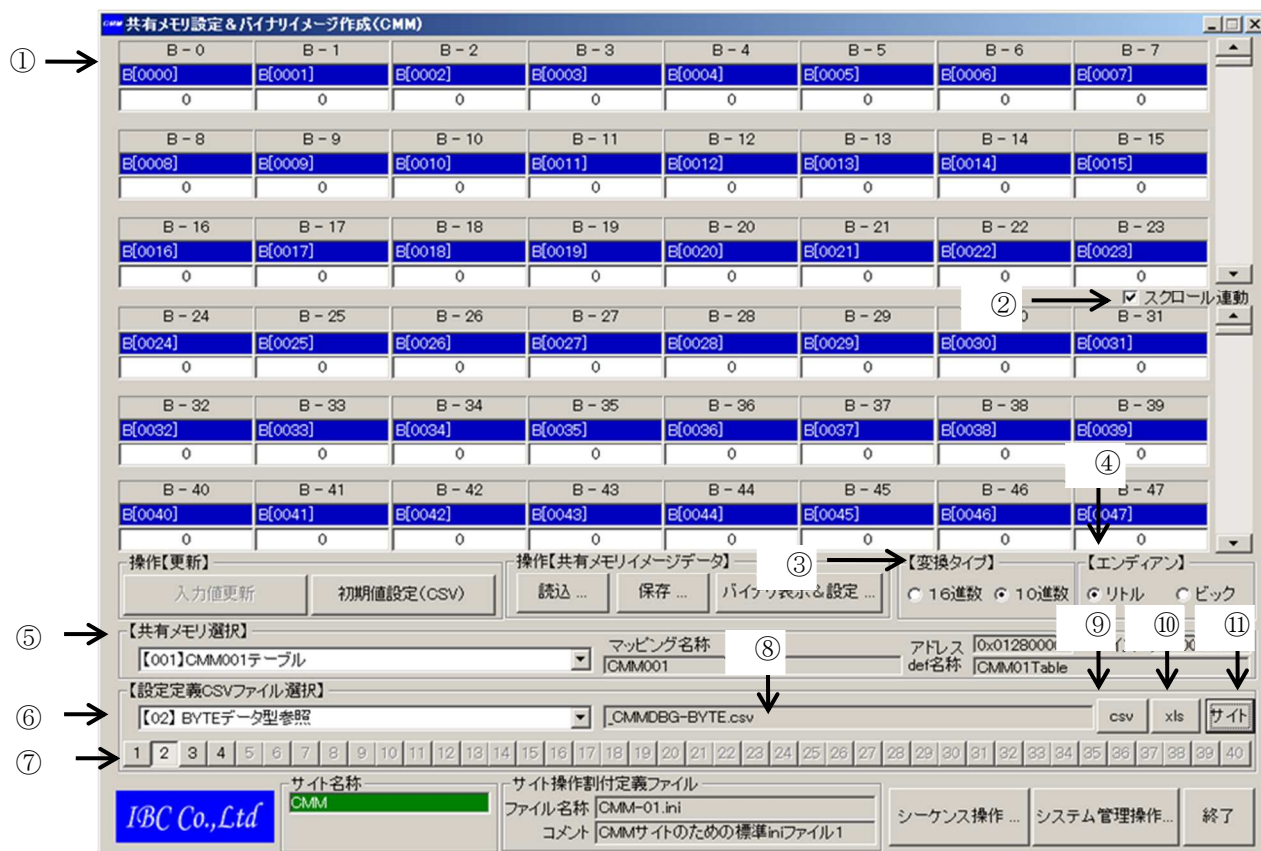
設定操作画面の概要機能を説明します。




No.	名称	内容	備考
①	画面タイトル	画面のタイトルを表示します。	
サイト情報			
②	サイト名称	操作対象サイト名称を表示します。	
	サイト操作割付定義ファイル		
③	ファイル名称	サイト操作割付定義ファイル名称を表示します。 設定操作画面の操作は、この定義に従います。	
④	コメント表示欄	サイト操作割付定義ファイルに対するコメントを表示します。	
システム操作			
⑤	シーケンス操作釦	シーケンス操作を行います。	
⑥	システム管理操作釦	共有メモリ割付サイト名を示します。 対象のサイトに対するシステム管理操作を行います。	
⑦	終了釦	アプリケーションを終了します。	

3. 2. 2 設定操作画面（表示）

設定操作画面の設定定義 CSV ファイルによる共有メモリの内容表示について説明します。

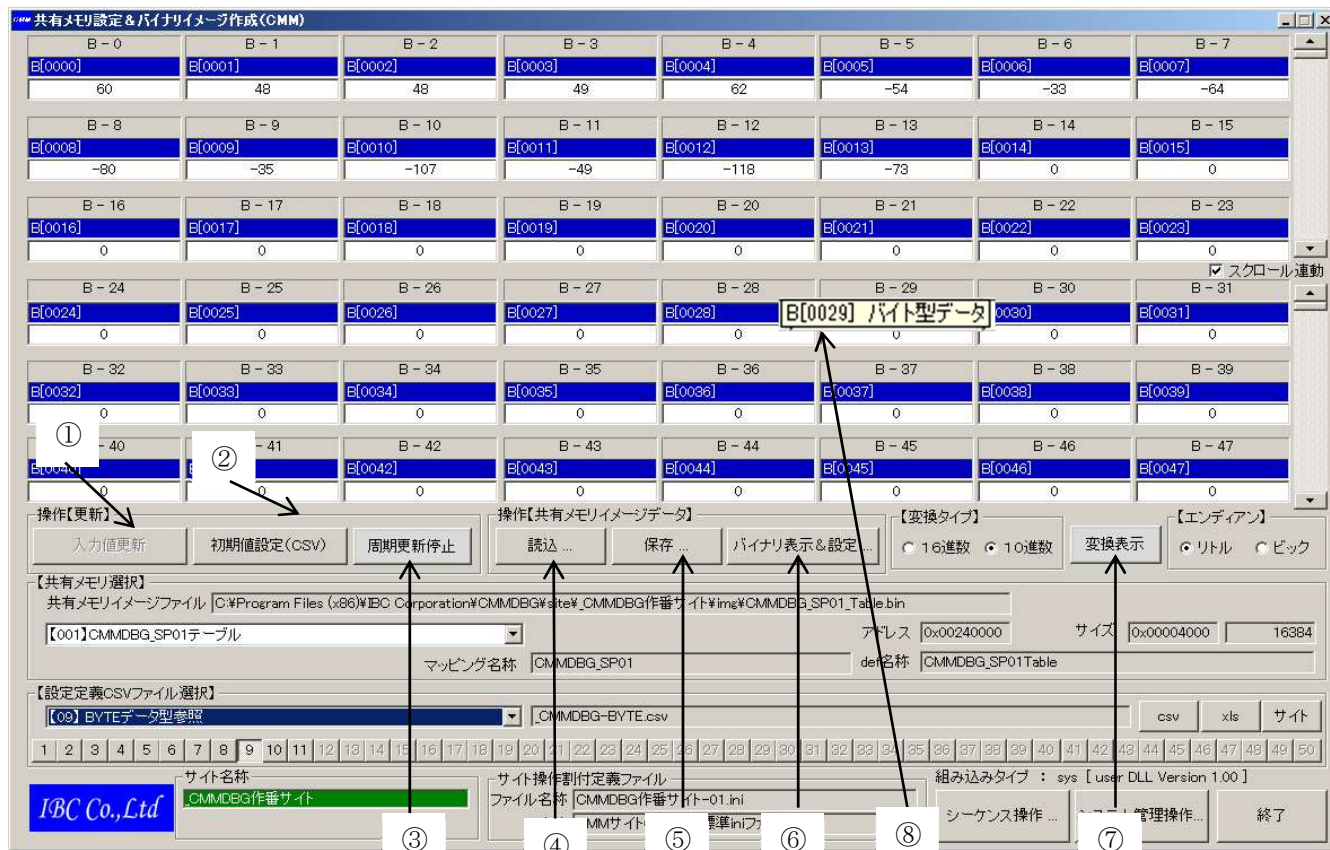


No.	名称	内容	備考
表示項目説明			
①	表示項目内容説明	 <p>(1) データ型 — (2) 相対位置 (3) 表示名 (4) 表示データ</p> <p>(1) データ型については、***を参照のこと。 (2) 相対位置は、⑬の共有メモリの先頭アドレスからの相対バイトアドレスを示します。 (3) 表示名は、表示データの意味を表示します。 (4) 表示データは、共有メモリの(2)相対位置、(1)データ型のデータを表示します。</p> <p>※ (1)～(4)は、⑥CSV ファイルに定義した内容に従って表示します。</p>	
表示操作説明			
②	スクロール連動チェック	<p>スクロール連動チェック鉤をチェックをしていない場合、上段の表示項目と下段の表示項目は、それぞれのスクロールバーにより独立してスクロールされます。</p> <p>スクロール連動チェック鉤をチェックすると、上段と下段の表示項目が連動した表示をします。</p> <p>この場合、スクロールバーにより連動してスクロールされます。</p>	
③	変換タイプ指定	②(4)表示データを表示する時、またはデータ入力	

No.	名称	内容	備考
		する時の変換タイプ(10進、16進)を指定します。	
④	エンディアン指定	②(4)表示データを表示する時のエンディアン(ビッグエンディアン, リトルエンディアン)を指定します。	
【共有メモリ選択】			
⑤	共有メモリ選択コンボボックス	共有メモリの選択を変更することで、表示項目に表示する共有メモリを変更します。 アドレス、サイズは、選択中の共有メモリのアドレスとサイズを示します。	
【設定定義 CSV ファイル選択】			
⑥	選択コンボボックス	設定定義 CSV ファイルの読込 # とタイトルを表示します。 コンボボックスで設定定義 CSV ファイル選択を変更できます。	
⑦	選択釦	選択釦が選択可能な釦は、使用可能です。 選択した読込 # に対応する設定定義 CSV ファイルを表示します。	
⑧	使用中 CSV ファイル	使用中の設定定義 CSV ファイル名称を表示します。	
⑨	ファイル表示釦	ファイル表示釦をクリックすると、設定定義 CSV ファイルをテキストエディタで表示します。	
⑩	EXCEL 表示釦	EXCEL 表示釦をクリックすると、設定定義 CSV ファイル名の拡張子を CSV→XLS に変更したファイルが存在すれば、EXCEL を表示します。	
⑪	サイトフォルダ開く釦	サイトフォルダをエクスプローラで開きます。	

3. 2. 3 設定操作画面（操作）

設定操作画面の画面操作に関する説明をします。



No.	名称	内容	備考
操作【更新】			
①	入力値更新釦	<p><u>表示データ(共有メモリの内容)を変更すると、変更した箇所が赤色表示</u>となります。</p> <p>変更の操作を行っただけでは、共有メモリにデータは設定されません。</p> <p><u>入力値更新釦をクリックした時に初めて、変更した値を共有メモリに反映</u>します。</p>	
②	初期値設定 (CSV) 釦	初期値設定 (CSV) 釦をクリックすると、 <u>設定定義 CSV ファイルに定義してある初期データを共有メモリに設定</u> します。	
③	周期更新停止	周期更新停止釦をクリックすると、表示されているデータの周期更新を停止します。	
No.	名称	内容	備考
操作【共有メモリーイメージデータ】			
④	読込…釦	共有メモリーイメージデータファイルを読み込みます。 <u>保存した共有メモリーイメージを共有メモリに設定</u> します。	操作は、3. 2. 4参照。
⑤	保存…釦	共有メモリの内容を共有メモリーイメージデータファイルに保存します。	操作は、3. 2. 5参照。
⑥	バイナリ表示&設定釦	バイナリ表示&設定釦をクリックすると、バイナリエディタイメージでデータを参照／変更することができます。	操作は、3. 2. 7参照。
⑦	変換表示	ユーザ組み込み変換機能によるデータ表示を有効にします。	
【項目コメントの表示操作】			
⑧	項目コメント表示	<p>設定定義 CSV ファイルに指定した項目コメントです。</p> <p>表示項目名 (青表示) にマウスカーソルを移動して表示します。</p>	

【項目コメントの表示例】

表示項目にマウスカーソルを移動して、項目コメントを表示できます。

B - 28	B - 29	B - 30
B[0028]	B[0029]	B[0030]
0	B[0029] バイト型データ	0
B - 36	B - 37	B - 38
B[0036]	B[0037]	B[0038]

左記の表示の指定例

表示項目名: B[0029]

項目コメント: B[0029] バイト型データ

3. 2. 4 共有メモリイメージファイル選択ダイアログ

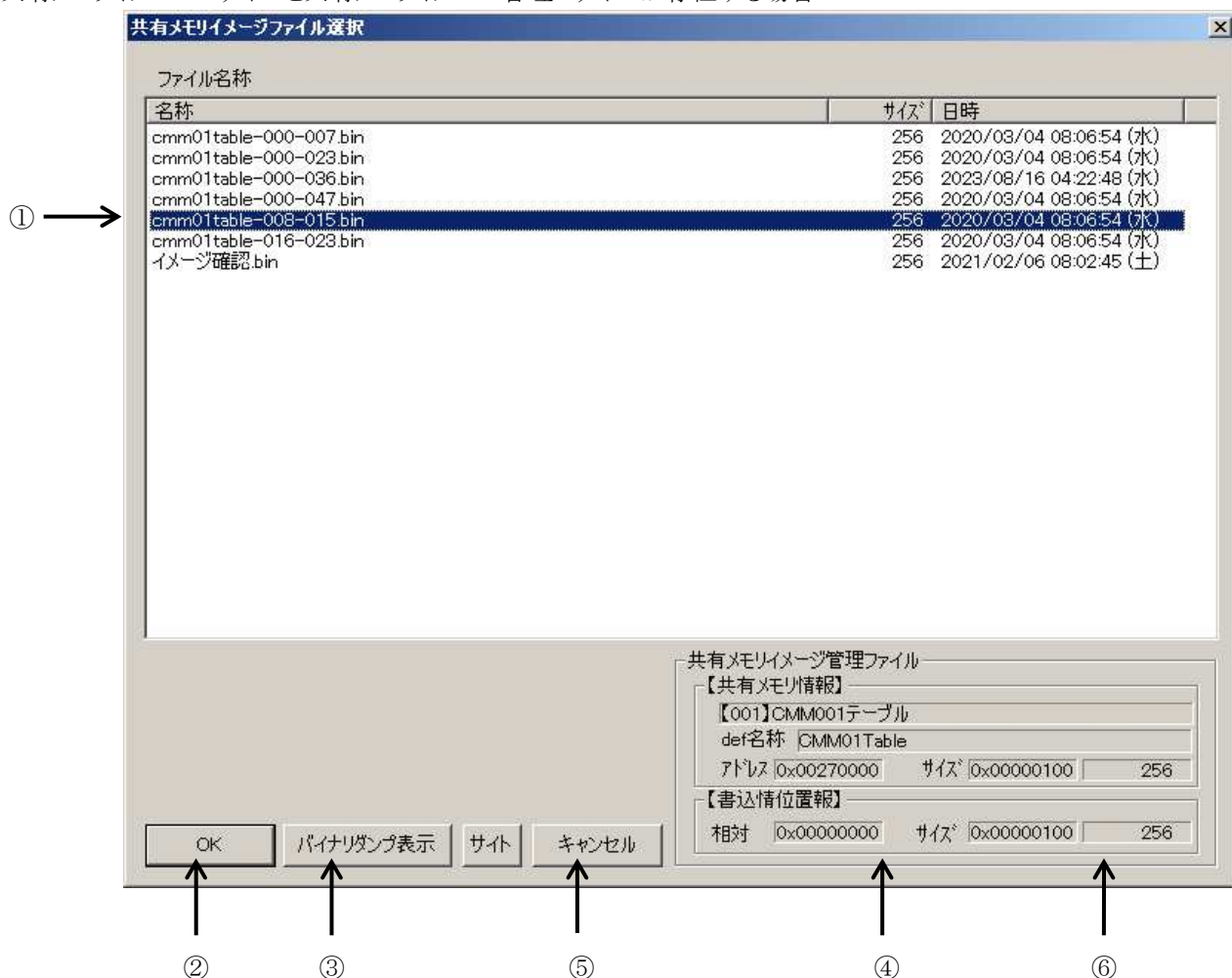
共有メモリイメージファイルの選択を行うためのダイアログです。

共有イメージファイルを選択していない場合、またはダイアログ初期表示の場合は、次頁の＜共有メモリイメージファイルのみの場合＞の表示となります。

「3. 2. 5 共有メモリイメージファイル保存ダイアログ」により保存すると、共有メモリイメージ管理ファイルも作成されます。

共有メモリイメージ管理ファイルが存在する場合、共有メモリイメージファイルを管理情報に従って読み込みます。

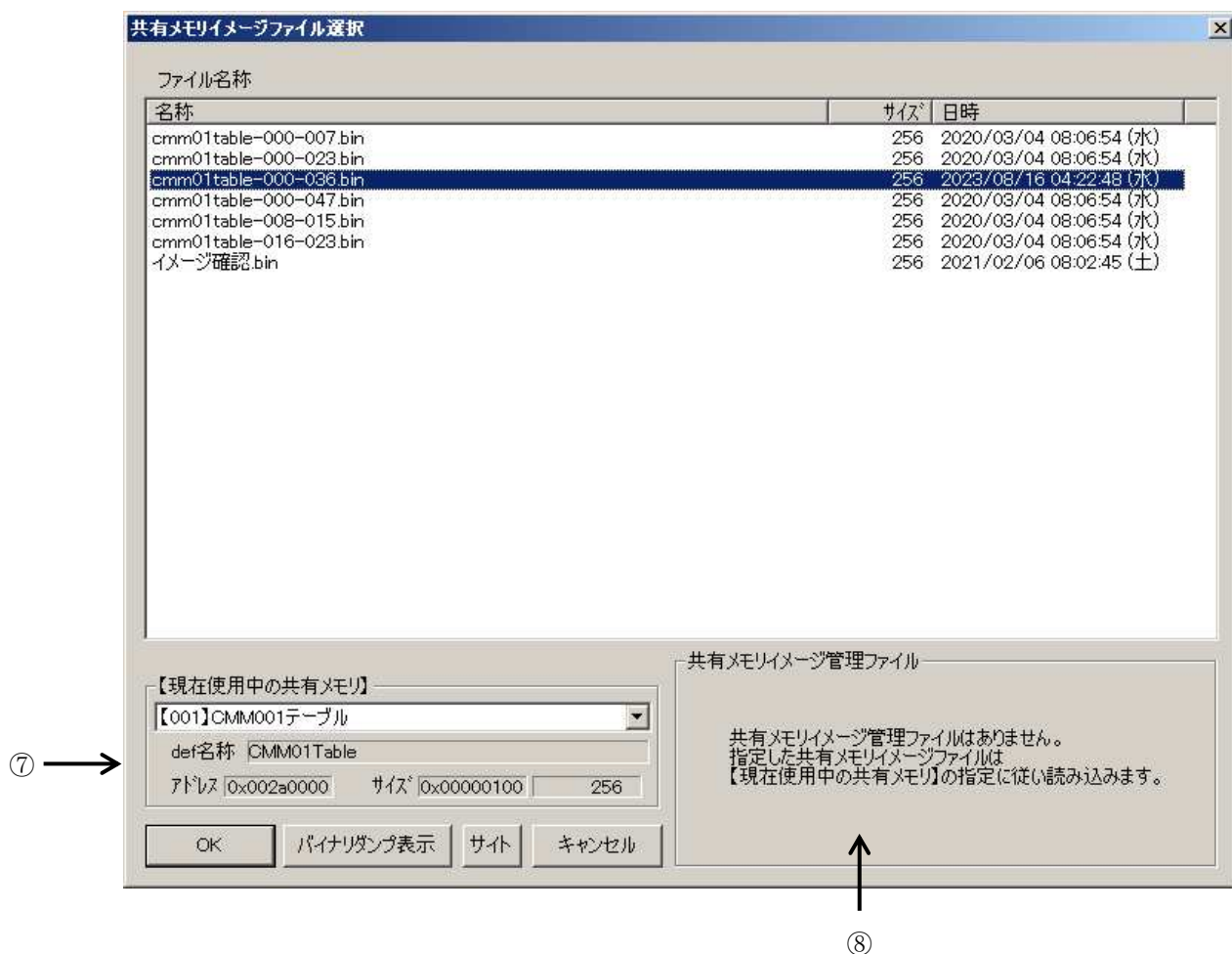
＜共有メモリイメージファイルと共有メモリイメージ管理ファイルが存在する場合＞



No.	名称	内容	備考
①	ファイル名称選択 【共有メモリ情報】	共有メモリイメージファイルを選択します。 選択すると共有メモリイメージ管理ファイルの情報を読み込んだ時に配置される共有メモリの情報(【共有メモリ情報】、共有メモリの【書込位置情報】)が表示されます。	
②	OK 釦	共有メモリイメージファイルを読み出し、共有メモリの【書込位置情報】に設定します。	
③	バイナリダンプ表示	「3. 2. 6 バイナリダンプ指定表示ダイアログ」を参照してください。	
④	キャンセル釦	何もせずにダイアログを閉じます。	
⑤	【書込位置】	保存する共有メモリの相対アドレスを指定します。	
⑥	【書込サイズ】	保存する共有メモリの書込サイズを指定します。	

共有メモリイメージ管理ファイルがない場合は、【現在使用中の共有メモリ】に共有メモリイメージファイルを読み込みます。

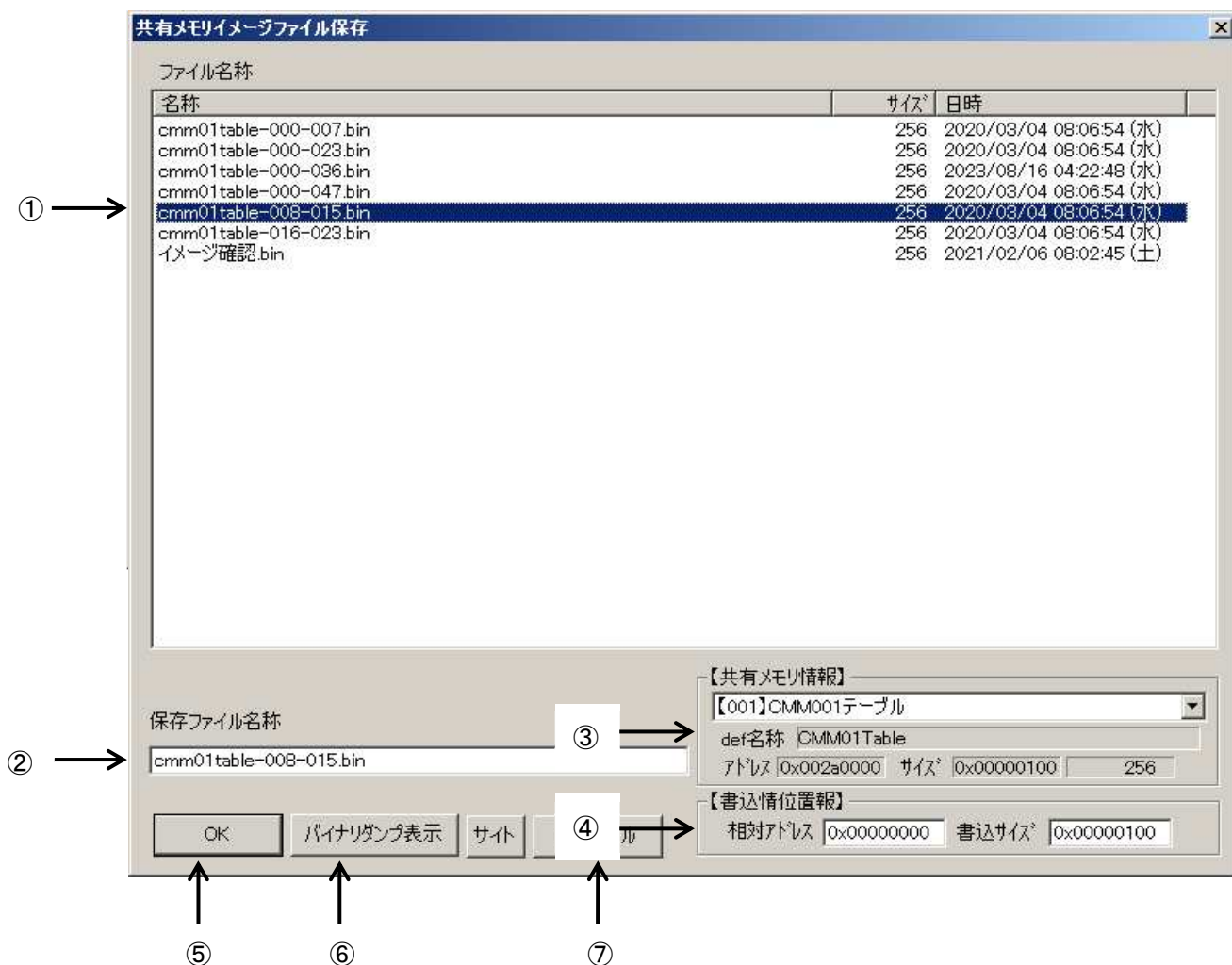
＜共有メモリイメージファイルのみの場合＞



No.	名称	内容	備考
⑦	【現在使用中の共有メモリ】	共有メモリイメージファイルを読み込む共有メモリを指定します。	
⑧	共有メモリイメージ管理ファイル	共有メモリイメージ管理ファイルが存在せず、共有イメージファイルのみ存在する場合にこのメッセージを表示します。	

3. 2. 5 共有メモリイメージファイル保存ダイアログ

共有メモリイメージファイルの保存を行うためのダイアログです。
保存すると共有メモリイメージファイルと共有メモリイメージ管理ファイルが作成されます。
共有メモリイメージの保存は、共有メモリの一部の保存もできるようになっています。

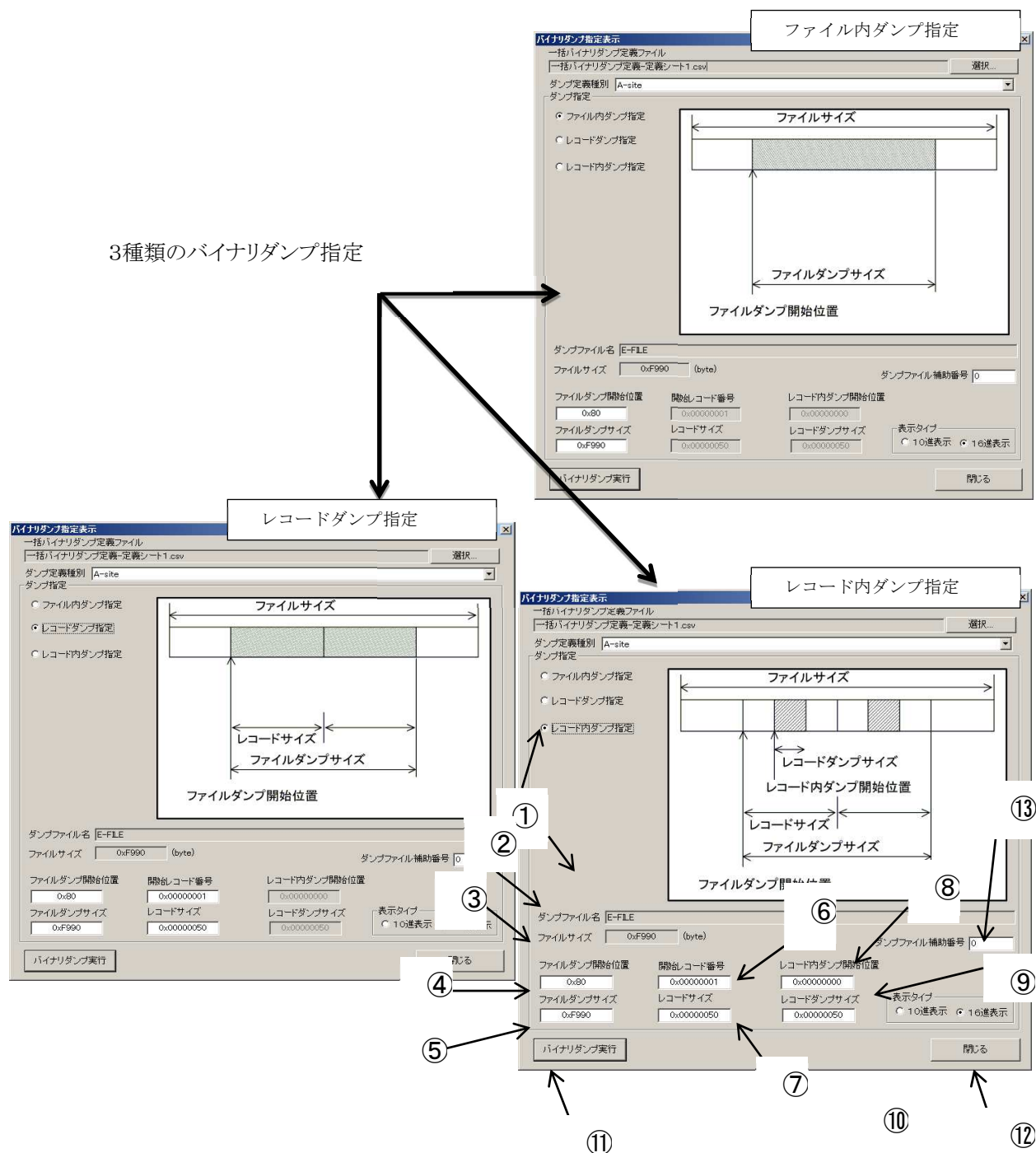


No.	名称	内容	備考
①	ファイル名称選択	共有メモリイメージファイルを選択すると、選択したファイルを保存ファイル名として格納します。 上書き保存する場合に利用します。	
②	保存ファイル名称	保存するファイル名称を指定します。 拡張子(.bin)を指定していない場合、補完します。	
③	【共有メモリ情報】	コンボボックスにより、共有メモリを選択します。	
④	【書込位置情報】	保存する共有メモリの相対アドレス、書込サイズを指定します。	
⑤	OK 釦	指定した【共有メモリ情報】、【書込位置情報】の共有メモリのデータを保存ファイル名称に保存します。	
⑥	バイナリダンプ表示	「3. 2. 6 バイナリダンプ指定表示ダイアログ」を参照してください。	
⑦	キャンセル釦	何もせずにダイアログを閉じます。	

- ※ 共有メモリーイメージファイルと共有メモリーイメージ管理ファイルが分かれています
が、共有メモリーイメージファイルはそのまま、バイナリファイルとして使用できます。
また、共有メモリのデータを修正して保存することで、バイナリファイルをメンテナンス
することができます。

3. 2. 6 バイナリダンプ指定表示ダイアログ

ファイルリストから選択したファイルのバイナリダンプ方法(3種類)を指定して表示します。



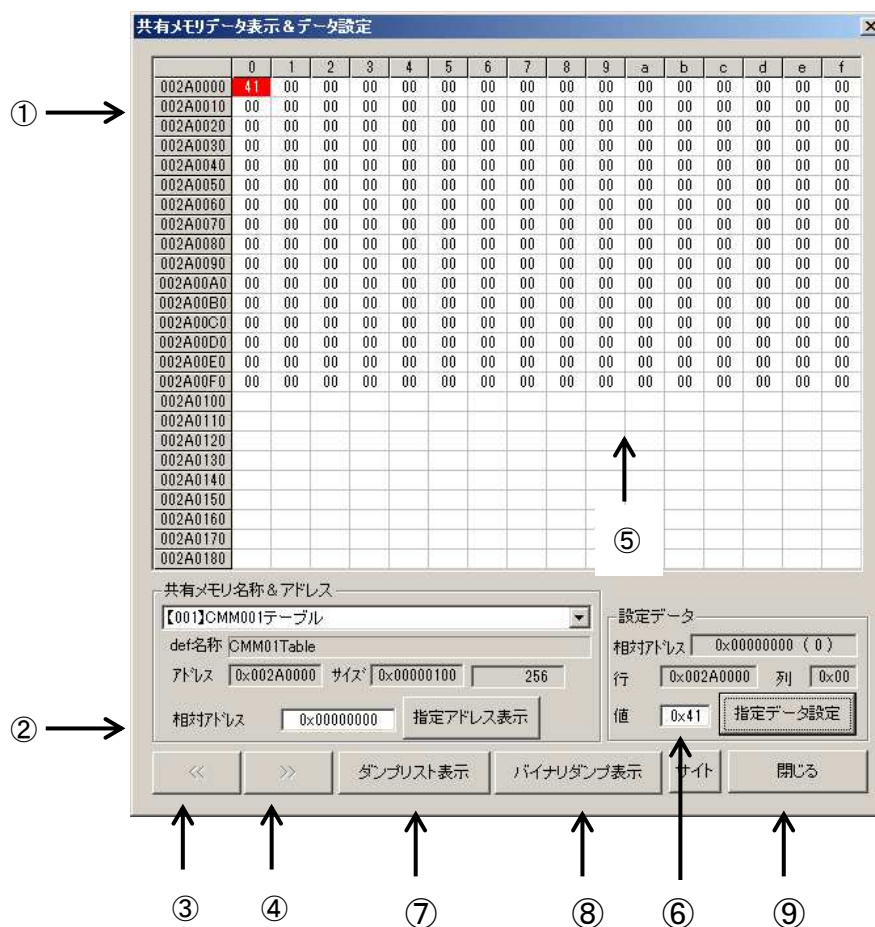
- ファイル内ダンプ指定
ファイルを指定位置から連続でダンプします。

- ・ レコードダンプ指定
ファイルを指定位置からレコードサイズを指定して、レコード毎に開始レコード番号から順番に付番して表示します。
- ・ レコード内ダンプ指定
レコード内の指定位置からレコードダンプサイズを指定して、レコード毎に開始レコード番号から順番に付番してレコードの一部を抽出してダンプします。

No.	名称	内容	備考
①	ダンプ定義種別	一括バイナリダンプ定義ファイルに定義したダンプ定義種別を表示します。	
②	ダンプファイル名	バイナリダンプ対象のファイル名称を表示します。	
③	ファイルサイズ	バイナリダンプ対象のファイルのサイズを報じます、	
④	ファイルダンプ開始位置	ファイルのダンプ開始位置を0相対のバイトで指定します。	必須項目
⑤	ファイルダンプサイズ	バイナリダンプするサイズをバイトで指定します。	必須項目
⑥	開始レコード番号	バイナリダンプしたレコードの開始レコード番号を指定します。	「レコードダンプ指定」 「レコード内ダンプ指定」
⑦	レコードサイズ	1レコードのサイズを指定します。	「レコードダンプ指定」 「レコード内ダンプ指定」
⑧	レコード内ダンプ開始位置	レコード内ダンプ開始位置を0相対のバイトで指定します。	「レコードダンプ指定」
⑨	レコードダンプサイズ	レコード内ダンプサイズをバイトで指定します。	「レコードダンプ指定」
⑩	表示タイプ	数値の表示を10進／16進切り替えて表示します。	
⑪	ダンプ実行	「ダンプ実行」鈕をクリックすると指定に従って、ダンプを実行します。	
⑫	閉じる	ダイアログを閉じます。	
⑬	ダンプファイル補助番号	バイナリダンプファイル名称に付加する補助番号です。 同じバイナリファイルのパラメータを変更してダンプする場合に有効です。	

3. 2. 7 共有メモリデータ表示 & データ設定ダイアログ

共有メモリのデータ表示とデータ設定を行うためのダイアログです。
呼び出された所で操作されていた共有メモリの情報が初期表示されます。
共有メモリ変更は、共有メモリ名称 & アドレスのコンボボックスによりできます。



No.	名称	内容	備考
①	共有メモリアドレス	表示データの共有メモリアドレスを示します。 設定操作画面の場合、選択中の共有メモリの左上端に表示されているアドレスが初期表示アドレスになります。 シーケンス操作画面の場合、現在実行中の共有メモリの先頭アドレスが初期表示アドレスとなります。	
②	相対アドレス 指定アドレス表示釦	相対アドレスを入力(10進、16進可能)し、指定アドレス表示釦をクリックすると、指定した相対アドレスからのデータを表示します。	
③	<< 釦	相対アドレスに-256バイト引いたアドレスから表示します。	
④	>> 釦	相対アドレスに+256バイト加えたアドレスから表示します。	
⑤	表示データ	共有メモリの内容を1バイトずつ16進表示しています。	

No.	名称	内容	備考
⑥	設定データ 指定データ設定釦	表示データをダブルクリックすると、変更データとして赤色表示し、設定データにそのアドレスおよびデータが表示されます。 値は、16進数表示ですが、変更したい値(10進、16進可能)を入力し、指定データ設定釦をクリックすると、共有メモリの指定アドレス(赤色選択部分)に設定できます。	
⑩	ダンプリスト表示釦	設定定義CSVファイルに従って、共有メモリの内容をダンプリスト表示します。 CSVファイルにダンプリスト出力し、EXCELで表示します。	
⑧	バイナリダンプ表示釦	表示中の共有メモリの全テーブルをバイナリダンプし、テキストファイルとして表示します。 テキストファイルは、仮名称で作成しますので、別共有メモリをダンプする場合は、別名で名前を付けてファイルを保存してから、バイナリダンプ表示を実行してください。	
⑨	閉じる釦	何もせずにダイアログを閉じます。	

<出力例>

The screenshot displays the CMMDBG application interface. The main window shows a memory dump with columns for address, data, and bit patterns. A dialog box is open, showing the '設定データ' (Setting Data) section. The '設定データ' section has a table with columns for '設定データ' (Setting Data) and '値' (Value). The '設定データ' section is currently empty. The '値' section shows the value '0x00000000'.

Below the main window, there are two output examples:

- <ダンプリスト出力>**: A screenshot of a CSV file named 'CMMDBGDumpList.csv' showing a list of memory addresses and their corresponding data. The data is organized into columns labeled A, B, C, D, E, and F. The addresses range from 0x00000000 to 0x00000010.
- <バイナリダンプ表示>**: A screenshot of a binary dump showing the raw data of the memory dump. The data is displayed in hexadecimal and ASCII format. The addresses range from 0x00000000 to 0x00000010.

3. 2. 8 バイナリダンプ表示指定ダイアログ

バイナリダンプ表示指定を行うためのダイアログです。

バイナリダンプ表示指定は、ダンプサイズ指定とレコードサイズ指定があります。

<ダンプサイズ指定>

<レコードサイズ指定>

No.	名称	内容	備考
①	ダンプサイズ指定	ダンプ開始位置からダンプサイズ分バイナリダンプ表示します。	
②	レコードサイズ指定	ダンプ開始位置からレコードサイズ区切りでダンプサイズ分バイナリダンプ表示します。	
③	ダンプ開始位置	ダンプ開始位置を共有メモリの相対アドレスで指定します。	
④	レコードサイズ	レコードサイズを指定します。 レコードサイズ指定の場合のみ指定します。	
⑤	ダンプサイズ	ダンプサイズを指定します。	
⑥	OK 釦	指定した共有メモリのデータをバイナリダンプリスト出力します。	
⑦	キャンセル釦	何もせずにダイアログを閉じます。	

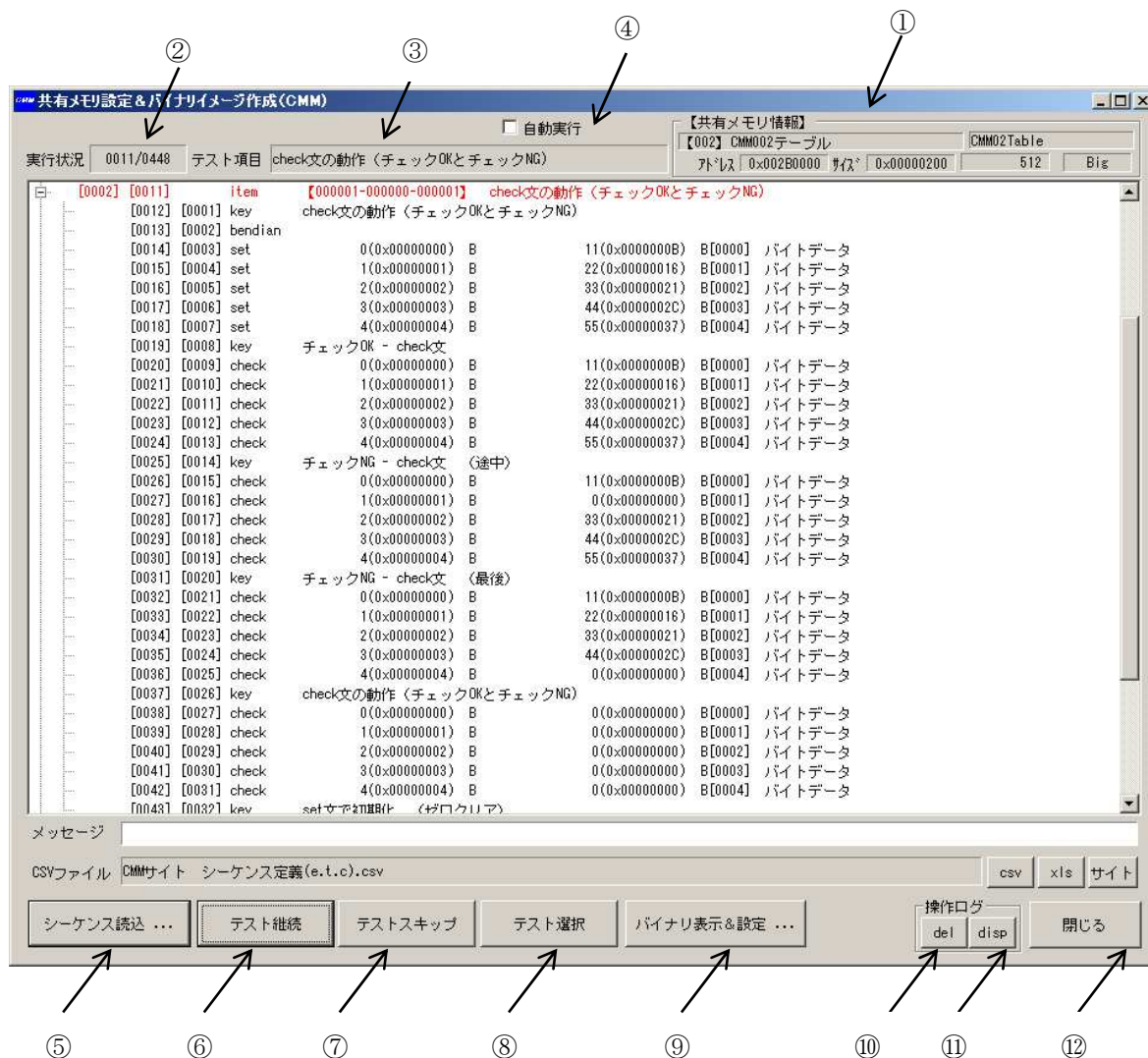
3. 3 シーケンス操作

シーケンス操作は、シーケンス定義 CSV ファイルを実行を行います。

インストール時には、「CMM」サイトがインストールされますので、すぐに操作可能です。

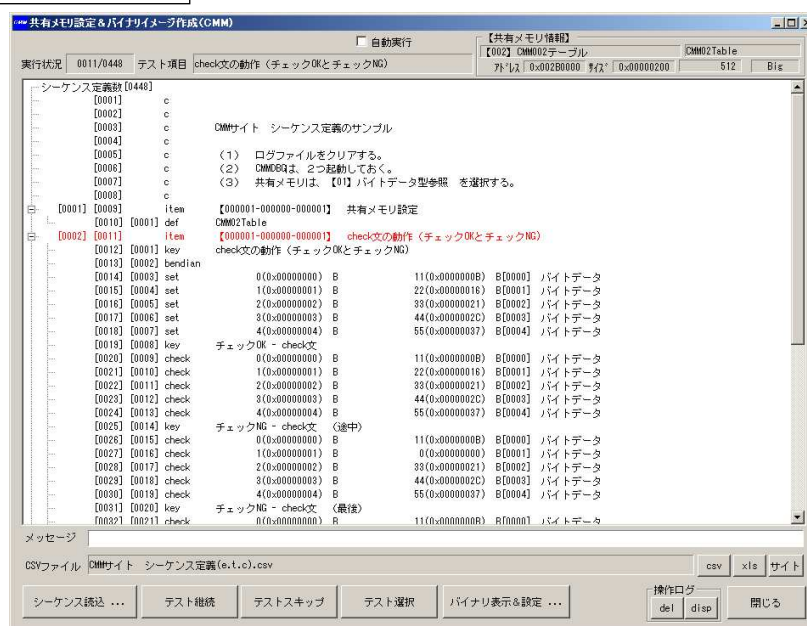
3. 3. 1 シーケンス操作画面（操作）

シーケンス定義 CSV ファイルを読み込み～実行操作を説明します。



No.	名称	内容	備考
①	シーケンス読込・・・釦	シーケンス読込・・・釦をクリックするとシーケンスファイルの内容をダイアログに表示します。	
②	テスト開始釦	テスト開始釦をクリックすると読み込まれたシーケンスファイルをテスト選択位置(赤字表示)から実行開始します。 テスト開始後は、テスト継続釦となります。	Enter キー、Space キーでも同様の操作となります。
③	テストスキップ釦	テストスキップ釦をクリックすると次のテスト項目へスキップします。	
④	テスト選択釦	テスト項目を選択して、テスト選択釦をクリックすると、指定したテスト項目を指定できます。	
No.	名称	内容	備考
⑤	バイナリ表示 & 設定・・・釦	共有メモリのデータをバイナリイメージでデータ表示、およびデータ変更できます。 詳細は、「3. 2. 6 共有メモリデータ表示 & データ設定ダイアログ」を参照のこと。	
⑥	del 釦	del 釦をクリックすると操作ログファイルを削除します。	
⑦	disp 釦	disp ボタンをクリックすると操作ログファイルをテキストエディタで表示します。	
⑧	閉じる	閉じる釦をクリックするとシーケンス操作画面を終了し、設定操作画面に戻ります。	
⑨	実行状況	(XXXXXXX/YYYYYYY) XXXXXXX: 実行中のシーケンス行番号(赤色) YYYYYYY: シーケンス定義行数	
⑩	テスト項目	実行中のテスト項目を表示します。	
⑪	自動実行チェック釦	自動実行チェック釦をチェックして、テストを実行すると、key 文は、Enter キーの操作をしなくても、一定待ち時間(デフォルト: 3秒)経過後、自動で実行します。	
⑫	共有メモリ情報	共有メモリの情報を表示します。 実行中のシーケンスが実行している共有メモリの情報です。 共有メモリ名称: 共有メモリ名称を表示します。 アドレス: 共有メモリの先頭アドレスを表示します。 サイズ: 共有メモリのサイズを表示します。 エンディアン: アクセス時のエンディアンを示します。 Big=ビッグエンディアン Little=リトルエンディアン	

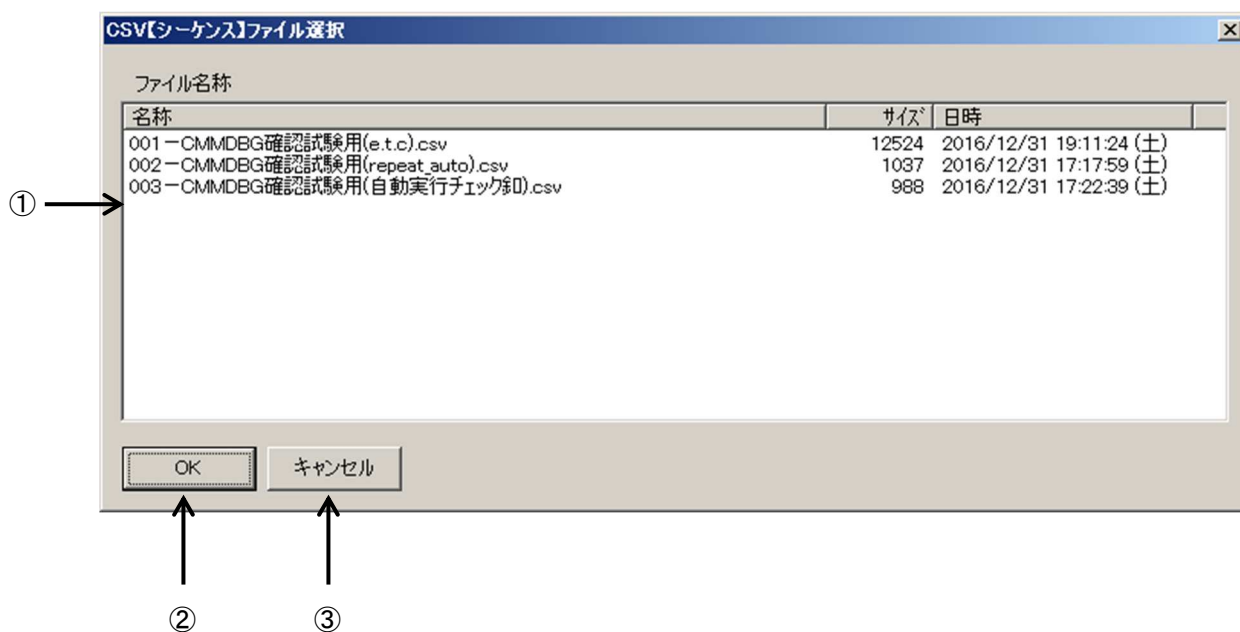
展開表示(例)



※ CMM サイトのサンプルシーケンスを参考にして動きを確認してください。

3. 3. 2 シーケンス定義 CSV ファイル選択ダイアログ

シーケンス定義 CSV ファイルを選択するためのダイアログです。



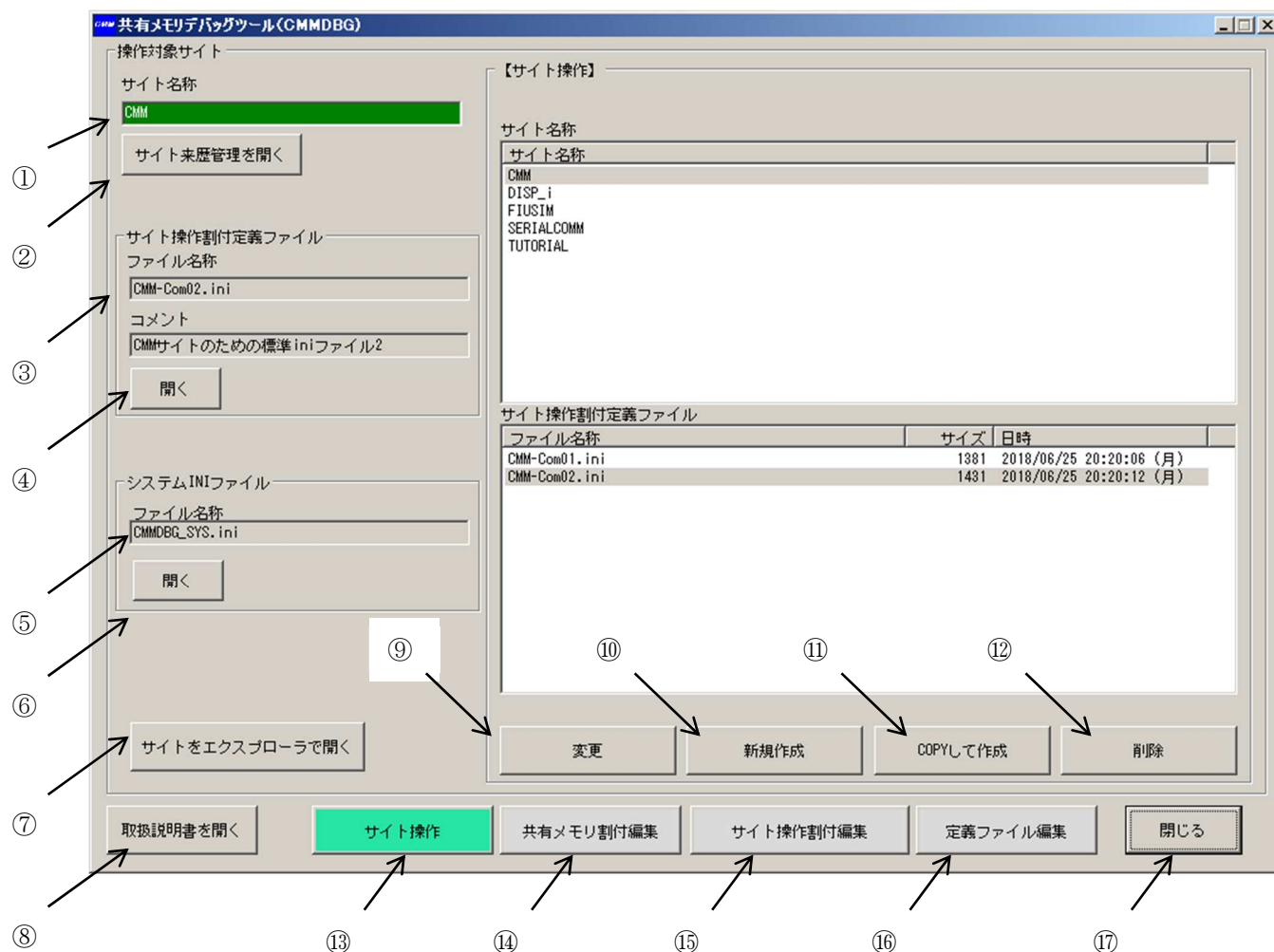
No.	名称	内容	備考
①	ファイル名称選択	シーケンス定義 CSV ファイルを選択します。	
②	OK 釦	選択したシーケンス定義 CSV ファイルを読み出し シーケンス操作画面(2. 3. 1参照)に表示します。	
③	キャンセル釦	何もせずにダイアログを閉じます。	

3. 4 システム管理操作

システム管理操作は、本システムにおけるサイトの作成～サイト操作定義～定義ファイル編集操作を行います。
インストール時には、「CMM」サイトがインストールされますので、サイトとはどういうものか確認できます。

3. 4. 1 システム管理操作画面(サイト操作)

サイト操作は、サイトの変更、サイトの新規作成、サイトを COPY して作成、サイトの削除ができます。

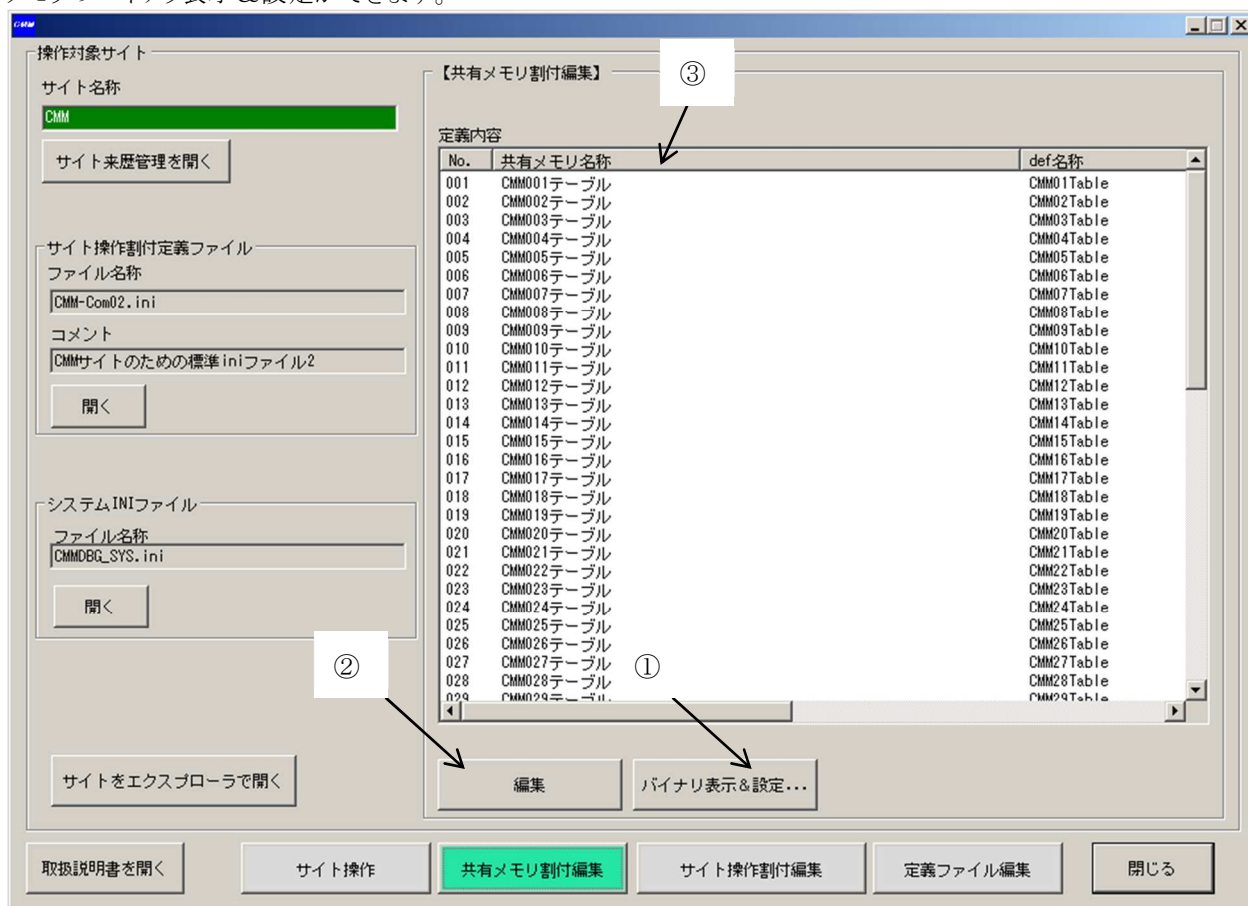


No.	名称	内容	備考
操作対象サイト			
①	サイト名称	操作対象のサイト名称を指定します。 共有メモリ割付編集、サイト操作割付定義編集、定義ファイル編集は、すべて操作対象のサイトに対する操作となります。	
②	サイト来歴管理を開く 釦	サイト来歴管理.xls ファイルを開きます。	
③	サイト操作割付定義フ ァイル	操作対象サイトの設定操作画面を表示するための 現在使用中のサイト操作割付定義ファイル情報を表 示します。 詳細は、「4. 4. 3 任意.ini(サイト操作割付定義フ ァイル)」を参照のこと。	
No.	名称	内容	備考
④	開く釦	現在使用中のサイト操作割付定義ファイルを開きま す。	
⑤	システム INI ファイル	システム INI ファイル名称(固定)を表示します。	
⑥	開く釦	システム INI ファイルを開きます。	
⑦	サイトをエクスプローラ で開く釦	操作対象サイトのフォルダをエクスプローラで開きま す。	
⑧	取扱説明書を開く釦	CMMDBG 取扱説明書ファイル(PDF ファイル)を 開きます。	
サイト操作			
⑨	変更釦	指定したサイトに変更します。 サイト名称とサイト操作割付定義ファイルを選択し、 変更釦をクリックします。 ※ サイト変更をした場合、本ツールの再起動が 必要となります。	
⑩	新規作成釦	サイトを新規作成します。 サイト名称指定ダイアログでサイト名称を指定し、サ イトを新規作成します。	
⑪	COPYして作成釦	指定したサイトをコピーして、サイトを作成します。 コピーしたいサイトを選択し、サイト名称指定ダイア ログでサイト名称を指定し、サイトを作成します。	
⑫	削除釦	サイトを作成します。 選択したサイトをフォルダ毎削除します。 削除したサイトフォルダは、ゴミ箱に入ります。	
操作切替			
⑬	サイト操作釦	システム管理操作画面(サイト操作)に切り替えま す。	緑色釦は操作中を示す。
⑭	共有メモリ割付編集釦	システム管理操作画面(共有メモリ割付編集)に切り 替えます。	

⑮	サイト操作割付定義編集釦	システム管理操作画面(サイト操作割付定義編集)に切り替えます。	
⑯	定義ファイル編集釦	システム管理操作画面(定義ファイル編集)に切り替えます。	
⑰	閉じる釦	設定操作画面に戻ります。	

3. 4. 2 システム管理操作画面(共有メモリ割付編集)

共有メモリ割付定義編集は、操作対象サイトの共有メモリ割付定義で定義した共有メモリの情報を確認、および共有メモリのバイナリ表示&設定ができます。

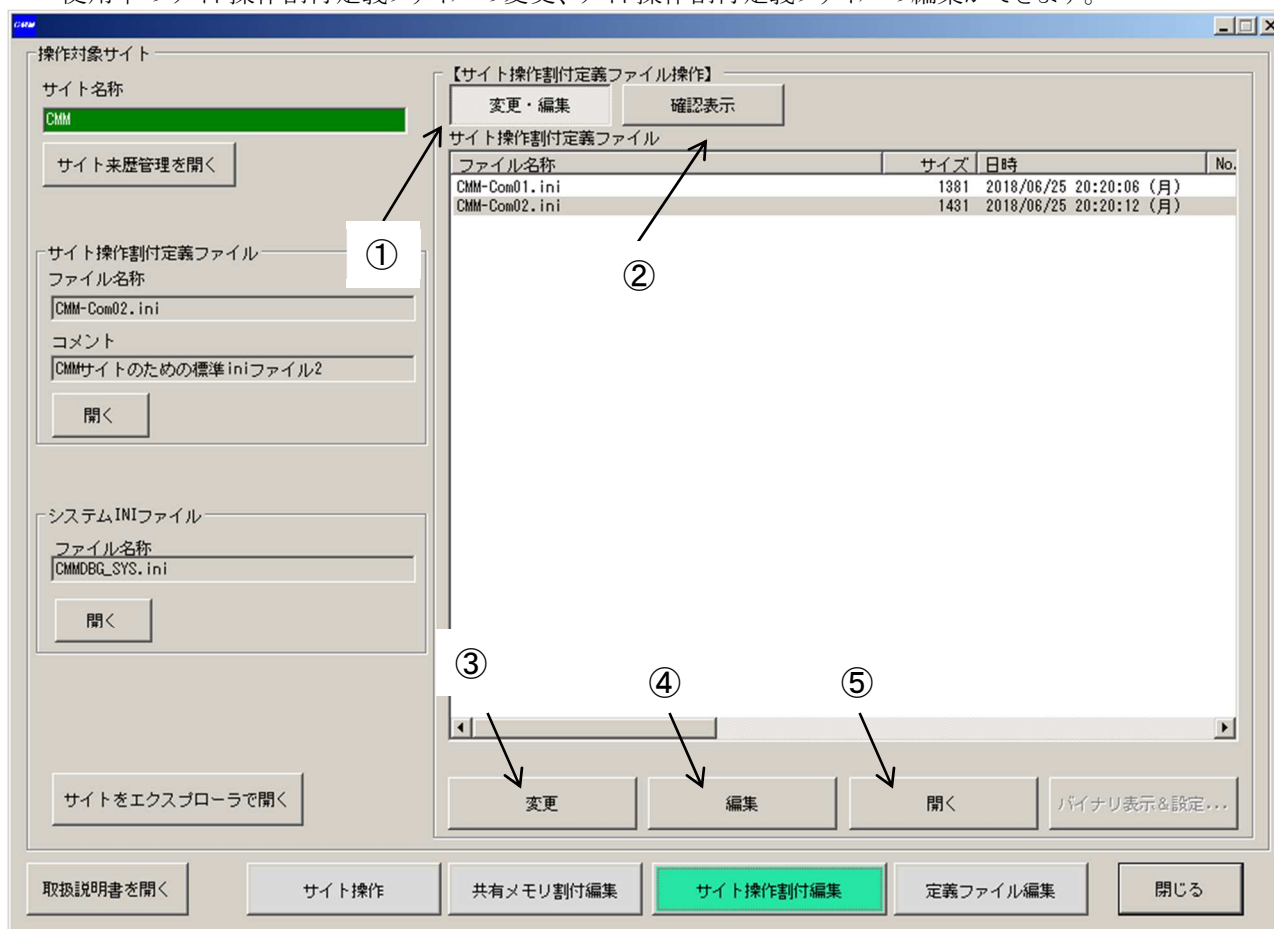


No.	名称	内容	備考
共有メモリ割付編集			
	編集鈕	<p>CMMDBG 共有メモリ割付定義&サイト操作定義割付.xlsを開きます。</p> <p>EXCEL シートにサイトの共有メモリ割付を行います。</p> <p>新規作成時は、原本シートをコピーし、シート名称にサイト名称としてください。</p> <p>COPYして作成時は、コピー元のサイトの共有割付定義シートをコピーし、サイト名称を変更後、共有メモリ割付を修正してください。</p> <p>※ 共有メモリ割付定義作成後、本ツールを再起動すれば、定義した共有メモリの情報が定義内容リストに表示されます。</p>	
②	バイナリ表示&設定...鈕	<p>定義内容リストの共有メモリを選択し、バイナリ表示&設定...鈕をクリックすると、共有メモリデータ表示&データ設定ダイアログが表示されます。</p> <p>※ 共有メモリをダブルクリック選択しても同様の操作となります。</p> <p>詳細は、「3. 2. 6 共有メモリデータ表示&データ設定ダイアログ」を参照のこと。</p>	

No.	名称	内容	備考																
③	定義内容	<p>共有メモリ割付定義の内容を表示します。 割り付けたすべての共有メモリの名称が一覧表示されます。</p> <table><tr><th>項目</th><th>内容</th></tr><tr><td>No.</td><td>共有メモリ割付定義した定義順に付けた一貫番号です。</td></tr><tr><td>共有メモリ名称</td><td>共有メモリ割付定義した共有メモリ名称です。</td></tr><tr><td>def 名称</td><td>シーケンス定義時に共有メモリを選択する場合に使用する名称です。</td></tr><tr><td>アドレス</td><td>割り付けた共有メモリのアドレスです。</td></tr><tr><td>サイズ</td><td>割り付けた共有メモリのサイズです。</td></tr><tr><td>初期化</td><td>初期化有無を示します。 有りの場合、割付時、ゼロクリアします。</td></tr><tr><td>マッピング名称</td><td>共有メモリを確保する場合のマッピング名称です。</td></tr></table>	項目	内容	No.	共有メモリ割付定義した定義順に付けた一貫番号です。	共有メモリ名称	共有メモリ割付定義した共有メモリ名称です。	def 名称	シーケンス定義時に共有メモリを選択する場合に使用する名称です。	アドレス	割り付けた共有メモリのアドレスです。	サイズ	割り付けた共有メモリのサイズです。	初期化	初期化有無を示します。 有りの場合、割付時、ゼロクリアします。	マッピング名称	共有メモリを確保する場合のマッピング名称です。	
項目	内容																		
No.	共有メモリ割付定義した定義順に付けた一貫番号です。																		
共有メモリ名称	共有メモリ割付定義した共有メモリ名称です。																		
def 名称	シーケンス定義時に共有メモリを選択する場合に使用する名称です。																		
アドレス	割り付けた共有メモリのアドレスです。																		
サイズ	割り付けた共有メモリのサイズです。																		
初期化	初期化有無を示します。 有りの場合、割付時、ゼロクリアします。																		
マッピング名称	共有メモリを確保する場合のマッピング名称です。																		

3. 4. 3 システム管理操作画面(サイト操作割付編集－変更・編集)

サイト操作割付編集は、設定操作画面における操作を決定するために行います。
使用中のサイト操作割付定義ファイルの変更、サイト操作割付定義ファイルの編集ができます。



No.	名称	内容	備考
サイト操作割付定義ファイル操作			
①	変更・編集釦	サイト操作割付定義ファイルの変更、共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xlsを開いて編集、サイト操作割付定義ファイルをテキストとして開く操作をします。	
②	確認表示釦	サイト操作割付定義ファイルに定義してある共有メモリとそれに対応する設定定義 CSV ファイルの編集、またはテキストとして開く操作をします。	
変更・編集時の操作			
③	変更釦	サイト操作割付定義ファイルの変更をします。 サイト操作割付定義ファイルを選択し、変更釦をクリックすると、サイト操作割付定義ファイルの情報が変更されます。	
④	編集釦	テスト開始釦をクリックすると読み込まれたシーケンスファイルを実行開始します。	
⑤	開く釦	テストスキップ釦をクリックすると次のテスト項目までスキップします。	

3. 4. 4 システム管理操作画面(サイト操作割付編集－確認表示)

サイト操作割付編集－確認表示は、使用中のサイト操作割付定義の内容を確認できます。

操作対象サイト
サイト名称
CMM

サイト来歴管理を開く

サイト操作割付定義ファイル
ファイル名称
CMM-Com02.ini
コメント
CMMサイトのための標準 iniファイル2
開く

システムINIファイル
ファイル名称
CMMDBG_SYS.ini
開く

サイトをエクスプローラで開く

【サイト操作割付定義ファイル操作】
変更・編集 確認表示

共有メモリ

No.	共有メモリ名称	def名称
006	CMM006テーブル	CMM06Table
007	CMM007テーブル	CMM07Table
008	CMM008テーブル	CMM08Table

設定定義CSVファイル

No.	タイトル名称	ファイル名称
01	BITデータ型参照	_CMMDBG-BIT.csv
02	BYTEデータ型参照	_CMMDBG-BYTE.csv
03	WORDデータ型参照	_CMMDBG-WORD.csv
04	LONGデータ型参照	_CMMDBG-LONG.csv

イメージファイル名称
m01table-000-047.img

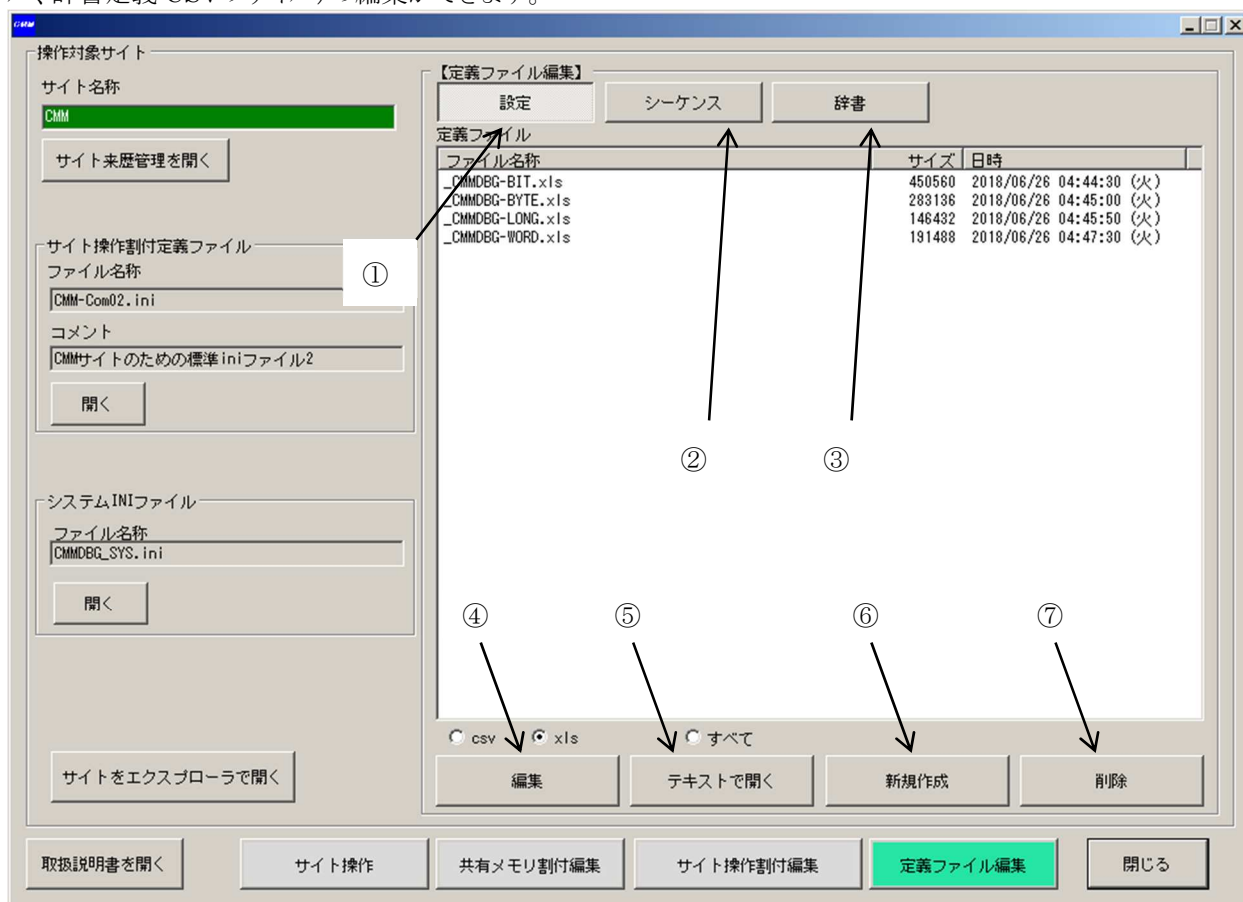
変更 編集 開く バイナリ表示&設定...

取扱説明書を開く サイト操作 共有メモリ割付編集 サイト操作割付編集 定義ファイル編集 閉じる

No.	名称	内容	備考
確認表示操作			
①	編集鉤	設定定義 CSV ファイル【下段のリスト】を選択し、編集鉤をクリックすると、設定定義ファイルを作成した EXCEL ファイルの編集をします。 ※ 設定定義ファイルをダブルクリックしても同様の操作となります。	
②	開く鉤	設定定義 CSV ファイル【下段のリスト】を選択し、開く鉤をクリックすると、設定定義 CSV ファイルをテキストとして開きます。	
④	バイナリ表示&設定鉤	共有メモリ【上段のリスト】を選択し、バイナリ表示 & 設定...鉤をクリックすると、共有メモリデータ表示 & データ設定ダイアログが表示されます。 ※ 共有メモリをダブルクリック選択しても同様の操作となります。 詳細は、「3. 2. 6 共有メモリデータ表示 & データ設定ダイアログ」を参照のこと。	

3. 4. 5 システム管理操作画面(定義ファイル編集)

定義ファイル編集は、操作対象サイトの定義ファイルの編集(設定定義 CSV ファイル、シーケンス定義 CSV ファイル、辞書定義 CSV ファイル)の編集ができます。



No.	名称	内容	備考
定義ファイル切替			
①	設定	設定定義 CSV ファイル表示に切り替えます。	
②	シーケンス	シーケンス定義 CSV ファイル表示に切り替えます。	
②	辞書	辞書定義 CSV ファイル表示に切り替えます。	
定義ファイル編集			
③	編集鈕	定義ファイルを選択し、編集鈕をクリックすると、定義ファイルを作成した EXCEL ファイルを開きます。 ※ 設定定義ファイルをダブルクリックしても同様の操作となります。	
⑤	テキストで開く	定義ファイルを選択し、テキストで開く鈕をクリックすると、定義ファイルをテキストで開きます。	
⑥	新規作成鈕	新規作成鈕をクリックすると、定義 CSV ファイル名称指定ダイアログを表示します。 定義ファイルを選択している場合は、その名称を初期表示します。名称を変更して指定してください。	
⑦	削除鈕	定義ファイル名称を指定し、削除鈕をクリックすると、指定ファイルを削除します。	

4. 定義

4.1 共有メモリ割付定義(共有メモリ割付定義 & サイト操作割付定義.xls)

共有メモリの割付を定義します。

4.1.1 共有メモリ割付ファイル(SharedMem_Define.dat)

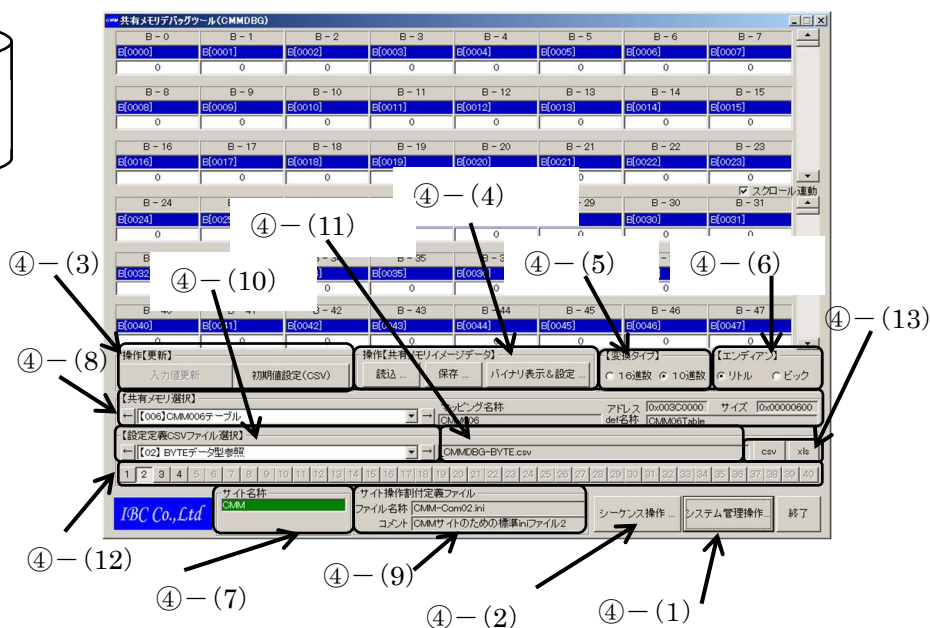
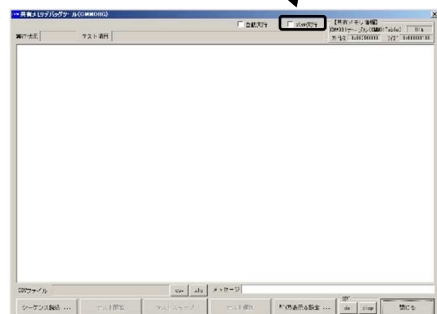
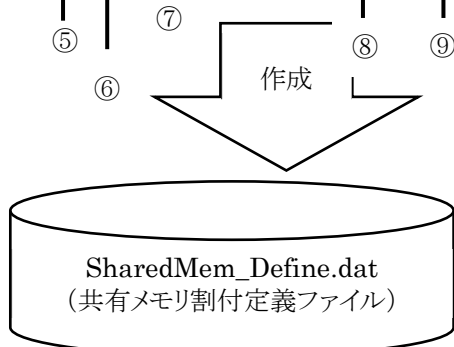
共有メモリ割付ファイルは、サイト毎に指定します。

このファイルは、バイナリファイルであり、共有メモリ割付定義 & サイト操作割付定義.xls(EXCEL ファイル)により作成します。

4. 1. 2 共有メモリ割付ファイル作成 (共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)

共有メモリの割付や CMMDBG の画面操作の指定を行います。

	A	B	C	D	E	F	G
			①			共有メモリ割付定義ファイル作成	
1							
2			サイト名称		②	CMM	
3			共有メモリ割付文字コードタイプ	1		(=1 : S-JIS , =2 : UniCode) ④	
4			コマンドタイトル	共有メモリデバッグツール (CMMDBG)			
5			CMMDBG取扱説明書	CMMDBG取扱説明書.pdf			【変更不可】
6			システムINIファイル名称(セクション名称)	CMMDBG.SYS.ini			【変更不可】
7		(1)	システム管理操作[O] 表示	1	=1 : 表示 , =0 : 非表示		
8		(2)	シーケンス操作[O] 表示	1			
9		(3)	操作【更新】[O] 表示	1			
10		(4)	操作【共有メモリイメージデータ】[O] 表示	1			
11		(5)	変換タイプ表示	1			
12		(6)	エンディアンタイプ表示	1			
13		(7)	サイト名称 表示	1	③		
14		(8)	【共有メモリ選択】 表示	1			
15		(9)	サイト操作割付定義ファイル 表示	1			
16		(10)	【設定定義CSVファイル選択】-コンボボックス 表示	1			
17		(11)	【設定定義CSVファイル選択】-ファイル名称[O] 表示	1			
18		(12)	【設定定義CSVファイル選択】-選択[O] 表示	1			
19		(13)	【設定定義CSVファイル選択】-編集[O] 表示	1			
20			シーケンス操作-ステップ実行[O] 表示	0	SEQ	※ 1ステップずつEnterキーで実行させる場合、=1を指定	
30		long	char[32]	ulong	long	char[64]	char[32]
31	No.	有効	マッピング名称	確保アドレス	確保サイズ	共有メモリ名称	def名称
32	1	1	MM001	0x00000000	0x00000001 00	CMM001テーブル	CMM01 Table



No.	名称	内容	備考
①	サイト名称	サイト名称を指定します。	
②	共有メモリ割付 文字コードタイプ	マッピング名称の文字コードタイプを指定します。 =1:S-JIS =2:Unicode	
③	コマンドタイトル	コマンドのタイトルを指定します。	
④	画面カスタマイズ指示	④ (1)～④-(15)の表示非表示を指定します。 ※ 表示／非表示を変更することで、機能を制限する設定ができます。 ※	
⑤	No.	1～255までの共有メモリを指定できます。	
⑥	有効	有効／無効を指定します。 =1:有効 、 =0:無効	
⑦	マッピング名称	共有メモリのマッピング名称を指定します。 プログラムで使用するマッピング名称と同じ名称を使用することで参照できます。	
⑧	確保アドレス	確保アドレスを指定している場合に指定します。 指定しない場合は、0x00000000を指定します。	
⑨	確保サイズ	確保サイズを指定します。 確保サイズがプログラムと同じにしないと参照できません。	
⑩	コンボボックス名称	共有メモリコンボボックスに表示する名称を指定します。	
⑪	def 名称	def 文(シーケンスで共有メモリ切り替えするためのもの)で使用する名称、共有メモリイメージファイルで保存時に使用する名称となります。	

4. 2 サイト操作割付定義(共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls)

サイト操作割付を定義するためのものです。

ここでは、サイト操作割付ファイルの作成方法について、説明します。

4. 2. 1 サイト操作割付ファイル(任意名称.ini)

サイト操作割付ファイルは、設定操作画面の操作に対する割付定義を行うためのファイルです。

このファイルは、テキストファイルであり、共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls(EXCEL ファイル)により作成します。

No.	指定項目	指定項目名称	指定内容
	[CMMDBG_SYS]	セクション名称【固定】	セクション名称を指定します。
1	SET_INITIAL_COMMENT	コメント	サイト操作割付定義ファイルのコメントを指定します。
2	INITIAL_FILE_NAME_XXX_YY	INI ファイル名称	設定操作画面の CSV ファイル選択釦(YY)に対応する INI ファイルを指定します。 XXX は、共有メモリ選択コンボボックス(XXX)の共有メモリに対応します。
3	INITIAL_TITLE_NAME_XXX_YY	INI ファイルタイトル	CSV ファイルタイトルコンボボックス(YY)に対応する INI ファイルを指定します。
4	INITIAL_SEL_INDEX_XXX	デフォルト表示する INI ファイルインデックス	デフォルト表示する INI ファイルのインデックス(0相対)を格納します。
5	INITIAL_IMAGE_NAME_XXX	デフォルト設定するイメージファイル	デフォルト表示する共有メモリのイメージファイルを格納します。

4. 2. 2 サイト操作割付定義作成（共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義.xls）

サイト操作割付ファイルを作成するためのものです。

1つのサイト操作割付定義ファイルに定義できる共有メモリの最大数は、255 個までです。

1つの共有メモリに割付できる設定定義 CSV ファイルの最大数は、40個までです。

共有メモリ名称（共有メモリ割付定義で定義した名称）

1:有効 0:無効

デフォルト選択表示

設定定義 CSV ファイル名称

表示名称

共有メモリイメージファイル

【標準の設定定義 CSV ファイル】

CMMDBG システムで用意している設定定義ファイルは、下表の通り4種類あります。

サイト新規作成時、サイトにコピーされます。そのまま使用しても、修正して使用しても、COPYして使用してもかまいません。

No.	ファイル名称	ファイル内容	備考
1	_CMMDBG-BIT.csv	D7～D0(ビット型)を127BYTE 分割り付けた設定定義 CSV ファイルです。	D7 ビット～D0 ビットの順で割り付けています。
2	_CMMDBG-BYTE.csv	B(バイト型)を1024BYTE 分分割り付けた設定定義 CSV ファイルです。	
3	_CMMDBG-LONG.csv	W(ワード型)を1024BYTE 分分割り付けた設定定義 CSV ファイルです。	
4	_CMMDBG-WORD.csv	L(ロング型)を 1024BYTE 分分割り付けた設定定義 CSV ファイルです。	

4. 3 設定定義 (パターン変換、変換タイプ)

設定定義CSVファイルを使用することで、設定操作画面からの操作により、設定の定義に従って、共有メモリに値を設定できます。

ここでは、設定の定義CSVファイルの作成方法について、説明します。

4. 3. 1 設定定義 CSV ファイル

メモリ設定定義(パターン変換、変換タイプ含む)

相対位置 , データ型 , 項目名称 , 初期データ , 項目コメント

相対位置: 現在表示中の共有メモリの先頭相対バイトアドレスを指定します。

データ型: データ型を指定します。

B : バイト型

W : ワード型

L : ロング型

C1~C1024: 文字型

D0~D7: ビット型

7	6	5	4	3	2	1	0
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0

- ※ 文字型の場合、初期データは、“(ダブルクォーテーション)で囲んで指定してください。
例えば、データ型を **C12** と指定した場合、**12byte** の初期データ文字を定義できます。
12byte に満たない場合、**0** データが設定されます。

P*NNN : パターン変換

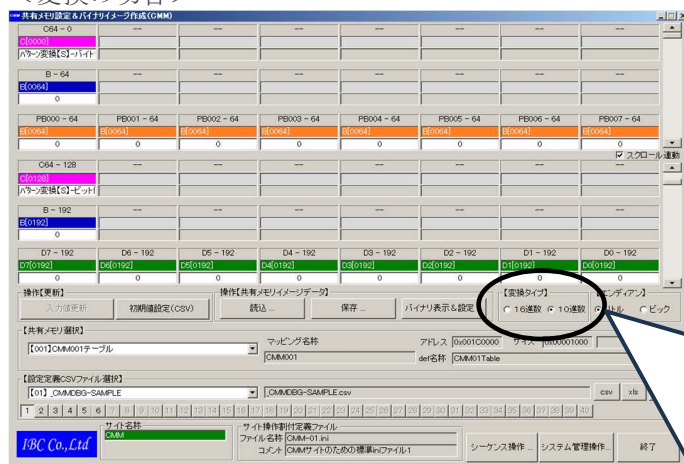
T*NNN : 変換タイプ

- ※ **P*NNN**、**T*NNN** の*部分は、データ型(**B**,**W**,**L**,**D0~D7**)のいずれかです。
データを評価して、パターン変換(**NNN**)、または、変換タイプ(**NNN**)による変換を行います。

NNN は、変換 No.です。

000~999 (但し、**000~099** は、システムで使用) の範囲で指定できます。

<変換の切替>



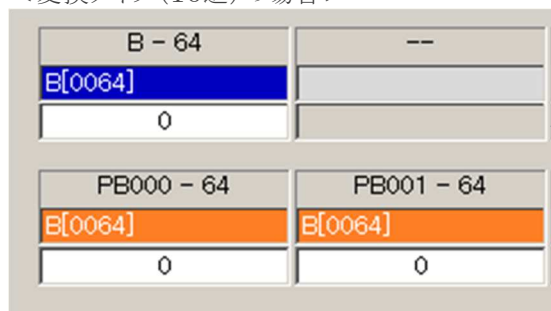
【変換タイプ】

<変換タイプ(10進)の場合>

<変換タイプ(16進)の場合>

の選択により、表示が変わります。
パターン変換、変換タイプによる変換以外の表示は従来通りです。

<変換タイプ(10進)の場合>



B - 64
PB000 - 64
PB001 - 64

いずれの場合も、相対 64 バイト目目のデータを1バイト表示しています。

<変換タイプ(16進)の場合>



B - 64
相対 64 バイト目目のデータを1バイト表示しています。

PB000 - 64
相対 64 バイト目目のデータを1バイトを評価して、パターン変換(000)に従って表示します。

※ =0:OFF, =1:ON

PB001 - 64
相対 64 バイト目目のデータを1バイトを評価して、パターン変換(001)に従って表示します。

※ =0:異常, =1:正常

(例) PB000 : 指定アドレスのバイトデータを評価し、パターン変換(000)のパターン定義ファイルに従って変換します。

D7 - 00000003	D6 - 00000003	D5 - 00000003	← ビット型の場合、 緑
003-D7	003-D6	003-D5	
0	1	0	
B - 00000000	B - 00000001	B - 00000002	← その他の場合、 青
000-B	001-B	002-B	
41	42	43	
C4 - 00000000			← 文字型の場合、 マゼンダ
000-C4			
ABCD			

PB000 - 00000040	PB001 - 00000040	PB002 - 00000040	← パターン変換の場合、 橙
B[0064]	B[0064]	B[0064]	
OFF	異常	未作成	

TB000 - 00000440	TB001 - 00000440	TB002 - 00000440	← 変換タイプの場合、 黒
B[1088]	B[1088]	B[1088]	
00:00:15	1111	17	

空白データ定義

space , , ,

space: 空白データの定義をします。

W - 18	--	W - 22
[0009]		[0011]
0		0

↑ 空白データ表示

改行データ定義

separator , , ,

separator: 改行データを定義します。

B - 8	--	--
[0004]		
0		

↑ これ以降(行の項目)を 空白データ

4. 3. 2 設定定義 CSV ファイル作成

設定定義 CSV ファイルを作成するための EXCEL シートです。

① 設定ファイル出力アドレス変換【SET】釐

A	B	C	D	E	F	G	H
1	この						
2	列	【設定定義CSVファイル作成EXCEL】					
3	使用	CMMDBG システム設定定義CSVファイル(WORD用)					
4	不可	※ 定義の有効範囲は、B9:B8200～F9:F8200 となります					
5	↓	※ A列は、アドレス変換エラーが発生した場合に ● 表示					
6	構文	相対アドレス	型	初期データ	表示項目名	項目コメント	
7							
8							
9							
10							
11							
12	set	0	W	0 W[0000]	W[0000]	ワード型データ	
13	set	2	W	1 W[0001]	W[0001]	ワード型データ	
14	set	4	W	2 W[0002]	W[0002]	ワード型データ	
15	set	6	W	3 W[0003]	W[0003]	ワード型データ	
16	set	8	W	4 W[0004]	W[0004]	ワード型データ	
17	set	10	W	5 W[0005]	W[0005]	ワード型データ	
18	set	12	W	6 W[0006]	W[0006]	ワード型データ	
19	set	14	W	7 W[0007]	W[0007]	ワード型データ	
20	set	16	W	8 W[0008]	W[0008]	ワード型データ	

項目コメント
表示項目名
設定データ（初期値設定(CSV)釐で設定される）
データ型
相対アドレス

指示（set, separator, space）

set : メモリ設定定義
space : ブランクデータ定義
separator : 改行データ定義

※ 形式は、辞書の定義と同じにしています。
そのまま、辞書の定義に使用可能です。

No.	名称	内容	備考
①	設定ファイル出力アドレス変換【SET】釐	設定の定義 CSV ファイルを作成します。 辞書の定義を使用している場合、名称から相対アドレス、データ型変換を行います。	
②	CSV 開く【SET】釐	設定の定義 CSV ファイルを開きます。	
③	CSV 開く【SET org】釐	変換前の設定の定義 CSV ファイルを開きます。	

B - 28	B - 29	B - 30
B[0028]	B[0029]	B[0030]
0	B[0029] バイト型データ	0
B - 36	B - 37	B - 38
B[0036]	B[0037]	B[0038]

左記の表示の指定例

表示項目名: B[0029]

項目コメント: B[0029] バイト型データ

4. 4 シーケンス定義

4. 4. 1 シーケンス定義 CSV ファイル

シーケンス定義(以下の定義構文)を実行する 100ms 周期に実行します。
for ~ endfor の間に定義した構文は、同一周期で1度に実行します。

データ型は、下図に示す通り5種類使用できます。

図 4.4.1-1 データ型

相対位置 , データ型 , 項目名称 , 初期データ , 項目コメント

相対位置: 現在表示中の共有メモリの先頭相対バイトアドレスを指定します。

データ型: データ型を指定します。

B : バイト型

W : ワード型

L : ロング型

C1~*C1024*: 文字型

D0~*D7*: ビット型

7	6	5	4	3	2	1	0
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0

※ 文字型の場合、初期データは、“(ダブルクォーテーション)”で囲んで指定してください。
例えば、データ型を *C12* と指定した場合、12byte の初期データ文字を定義できます。
12byte に満たない場合、0 データが設定されます。

D7 - 00000003	D6 - 00000003	D5 - 00000003	← ビット型の場合、 緑
003-D7	003-D6	003-D5	
0	1	0	
B - 00000000	B - 00000001	B - 00000002	← その他の場合、 青
000-B	001-B	002-B	
41	42	43	
C4 - 00000000			← 文字型の場合、 マゼンダ
000-C4			
ABCD			

item テスト項目の指定 & Enter キー操作待ち

item, 大項目 #, 中項目 #, 小項目 #, テスト項目のコメント,

大項目 #、中項目 #、小項目 # : 任意に付 # して管理してください。

テスト項目のコメント : テスト項目の内容を意味するコメントを記述します。

c コメントの指定

c, , , , テスト項目のコメント,

テスト項目のコメントを指定します。

set 共有メモリに指定した値を設定

set, 相対アドレス, データ型, 設定データ, 表示項目名称,

set, 辞書定義名称, , 設定データ, 表示項目名称

相対アドレス: 共有メモリの先頭からの相対バイトアドレスを指定します。

データ型 : データ型を指定します。

設定データ: 設定データを指定します。

表示名称 : 表示名称を指定します。

辞書定義名称: 辞書定義名称から、相対アドレス、データ型を取得します。データ型の記載は不要です。

def 共有メモリの切替指定

def, 大項目 #, 中項目 #, 小項目 #, テスト項目のコメント,

大項目 #、中項目 #、小項目 # : 任意に付 # して管理してください。

テスト項目のコメント : テスト項目の内容を意味するコメントを記述します。

key Enter キー操作待ち

key, キーコメント, , , ,

キーコメント : テスト項目の実行を停止したキーコメントを記載する。

sleep 指定待ち時間 (ms) 操作待ち

sleep, 待ち時間指定, , , ,

待ち時間指定 : 待ち時間を指定します。

wait 共有メモリが指定した値になるまでデータ待ち

wait, 相対アドレス, データ型, 設定データ, 表示項目名称,

wait, 辞書定義名称, 設定データ, 表示項目名称

相対アドレス: 共有メモリの先頭からの相対バイトアドレスを指定します。

データ型 : データ型を指定します。

設定データ: 設定データを指定します。

表示名称 : 表示名称を指定します。

辞書定義名称: 辞書定義名称から、相対アドレス、データ型を取得します。データ型の記載は不要です。

※ 自動実行時も条件成立するまでは待ちを解除しません。

waitand**共有メモリの内容が waitand 文すべて成立まで待ち**

waitand は、**for** ～ **endfor** 内での使用可能です。

waitand, 相対アドレス, データ型, 設定データ, 表示項目名称,

waitand, 辞書定義名称, 設定データ, 表示項目名称

相対アドレス: 共有メモリの先頭からの相対バイトアドレスを指定します。

データ型 : データ型を指定します。

設定データ: 設定データを指定します。

表示名称 : 表示名称を指定します。

辞書定義名称: 辞書定義名称から、相対アドレス、データ型を取得します。データ型の記載は不要です。

※ 自動実行時も条件成立するまでは待ちを解除しません。

for ～ **endfor****一括設定指定**

for, , , , ,

def

set

wait

waitand

lendian

bendian

endfor, , , , ,

for ～ **endfor** : 128 個の構文を指定できます。**endfor** 文を実行時に **for** ～ **endfor** の間の文を同一実行周期で一度に実行します。

set : 設定を実行します。

wait : いずれかの条件が成立するまで実行を停止します。

waitand: すべての条件が成立するまで実行を停止します。

※ **wait**, **waitand** は、**for** ～ **endfor** 文以外で使用した場合、同じ動作をします。

bendian

データ設定方法切替(ビッグエンディアン)

bendian, , , ,

bendian :ビッグエンディアンでデータアクセスすることを宣言します。

lendian

データ設定方法切替(リトルエンディアン)

lendian, , , ,

lendian :リトルエンディアンでデータアクセスすることを宣言します。

repeat_auto すべてのテスト項目を繰り返し実行指定

repeat_auto, , , ,

repeat_auto : テスト項目すべてを現在の選択行から実行し、繰り返す宣言をします。
テスト項目の選択位置からシーケンス実行を停止するまで繰り返します。
※ 選択したテスト項目以降は、すべてのテスト項目を自動実行します。

repeat_item 指定したテスト項目を繰り返し実行指定

repeat_item, , , ,

repeat_item : テスト項目を現在の選択行から実行し、該当テスト項目を繰り返す宣言をします。
※ 該当テスト項目内に定義すれば、該当テスト項目を自動実行します。

skip_key テスト項目の key 文の無効指定

skip_key, , , ,

skip_key : テスト項目の *key* 文指定を無効とし停止しない状態にします。

label ラベル名称指定

label, ラベル名称, , , ,

ラベル名称:*goto* 文、*if* 文のためのラベル名称を指定します。

goto 指定したラベル名称にジャンプ

goto, ラベル名称, , , ,

ラベル名称:*label* 文で定義したジャンプ先のラベル名称を指定します。

if

共有メモリを判定し条件が成立すれば、指定ラベルにジャンプ

if, 相対アドレス, データ型, 設定データ, ラベル名称,

if, 辞書定義名称,, 設定データ, ラベル名称

相対アドレス: 共有メモリの先頭からの相対バイトアドレスを指定します。

データ型 : データ型を指定します。

設定データ: 設定データを指定します。

表示名称 : 表示名称を指定します。

辞書定義名称: 辞書定義名称から、相対アドレス、データ型を取得します。データ型の記載は不要です。

check

共有メモリが指定した値と不一致の場合、メッセージ表示 & Enter キー操作待ち

check, 相対アドレス, データ型, 設定データ, 表示項目名称,

check, 辞書定義名称, 設定データ, 表示項目名称

相対アドレス: 共有メモリの先頭からの相対バイトアドレスを指定します。

データ型 : データ型を指定します。

設定データ: 設定データを指定します。

表示名称 : 表示名称を指定します。

辞書定義名称: 辞書定義名称から、相対アドレス、データ型を取得します。データ型の記載は不要です。

※ 自動実行時は、チェック不一致の場合、メッセージ表示後、操作待ちしません。
操作ログでチェック不一致有無を確認してください。

image_set

共有メモリイメージファイルをアクセス中の共有メモリに設定

image_set, 共有メモリイメージファイル名称, , , ,

共有メモリイメージファイル名称 : 設定操作画面－【共有メモリイメージ】で保存した共有メモリイメージファイルを指定します。

共有メモリイメージファイルは、設定操作画面－【共有メモリイメージデータ】－保存... 釦をクリックして作成します。

保存するメモリは、デフォルトで共有メモリ全体となります。保存操作時に、保存開始アドレスと保存サイズを指定することで、部分的に共有メモリイメージを保存できます。

4. 4. 2 シーケンス定義 CSV ファイル作成

シーケンス定義 CSV ファイルを作成するための EXCEL シートです。

① シーケンスファイル出力アドレス変換【SEQ】鉤

A	B	C	D	E	F	G
1	この					
2	列	【シーケンス定義CSVファイル作成EXCEL】		②	CSV 開く【SEQ】鉤	シーケンス ファイル出力 アドレス変換 【SEQ】
3	使用					
4	不可			③	CSV 開く【SEQ_org】鉤	CSV開く 【SEQ】
5	↓	※ 定義の有効範囲は、B9:B8200～F9:F8200 となります。				CSV開く 【SEQ org】
8	構文	相対アドレス(辞書使用可)	型	設定データ	表示項目名	
9	c					
10	c					
11	c	CMMDBG 使用例のサンプル				
12	c					
13	c					
14	c	※ テスト実行繰り返しシーケンス (repeat_auto文)				
15	c					
16	c					
17	repeat_auto					
18	item				このシーケンスは、繰り返し テスト1項目	
19	c	設定				
20	key	設定				
21	set	CMM01-B-0000	B	0	CMM01-B-0000	
22	set	CMM01-B-0001	B	1	CMM01-B-0001	
23	set	CMM01-B-0002	B	1	CMM01-B-0002	
24	separator					
25	sleep		1000		1000ms待ち	
26	item				テスト2項目	
27	c	設定				
28	key	設定				
29	set	CMM01-B-0000	B	0	CMM01-B-0000	

CSV ファイルの項目に対応します。

4. 2. 1 シーケンス定義 CSV ファイルの説明に従い、
CSV 項目をセルに指定します。

No.	名称	内容	備考
①	シーケンスファイル出力 アドレス変換【SEQ】鉤	シーケンスの定義 CSV ファイルを作成します。 辞書の定義を使用している場合、名称から相対 アドレス、データ型変換を行います。	
②	CSV 開く【SEQ】鉤	シーケンスの定義 CSV ファイルを開きます。	
③	CSV 開く【SEQ_org】鉤	変換前のシーケンスの定義 CSV ファイルを開き ます。	

4.5 辞書定義

4.5.1 辞書定義 CSV ファイル

下図に示す項目名称が、キー名称となります。

ここで指定した項目名称を設定の定義 CSV ファイル、シーケンスの定義 CSV ファイルで使用すれば、EXCEL ファイルのマクロが実行され、変換が行われます。

EXCEL ファイルの詳細については、下記を参照ください。

- ・ 3.1.2 設定の定義作成 EXCEL ファイル
- ・ 3.2.2 シーケンスの定義作成 EXCEL ファイル

相対位置 , データ型 , 項目名称 , 初期データ

相対位置:現在表示中の共有メモリの先頭相対バイトアドレスを指定します。

データ型:データ型を指定します。

B : バイト型

W : ワード型

L : ロング型

C1~C1024:文字型

D0~D7:ビット型

7	6	5	4	3	2	1	0
D7	D6	D5	D4	D3	D2	D1	D0

※ 文字型の場合、初期データは、“(ダブルクォーテーション)で囲んで指定してください。

例えば、データ型を *C12* と指定した場合、*12byte* の初期データ文字を定義できます。

12byte に満たない場合、*0* データが設定されます。

D7 - 00000003	D6 - 00000003	D5 - 00000003	← ビット型以外の場合、 青
003-D7	003-D6	003-D5	
0	1	0	
B - 00000000	B - 00000001	B - 00000002	← ビット型の場合、 緑
000-B	001-B	002-B	
41	42	43	
C4 - 00000000			← 文字型の場合、 マゼンダ
000-C4			
ABCD			

4. 5. 2 辞書定義 CSV ファイル作成

辞書定義 CSV ファイルを作成するための EXCEL シートです。

A	B	C	D	E	F	G	H
1	この						設定
2	列	【設定定義CSVファイル作成EXCEL】					ファイル出力
3	使用						アドレス変換
4	不可						【SET】
5	↓						CSV開く【SET】
6		※ 定義の有効範囲は、B9:B8200～F9:F8200 となります。					CSV開く【SET org】
7		※ A列は、アドレス変換エラーが発生した場合に ● 表示。					
8	構文	相対アドレス	型	初期データ	登録項目名	項目コメント	
9	c						
10	c	辞書定義					
11	c						
12	set	22	W	0	speed_flag	speed_flag	
13	set	44	W	0	now_speed	now_speed	
14	set	66	W	0	ok_speed	ok_speed	
15	set	88	W	0	nfb_sw	nfb_sw	
16	set	176	W	0	ATI_DISPbuff[1009]	ATI_DISPbuff[1009]	
17	set	200	W	0	BB1	BB1	
18	set	0	W	0	[0000]	[0000]	
19	set	2	W	0	[0001]	[0001]	
20	set	4	W	0	[0002]	[0002]	
21	set	0	B	0	CMM01-B-0000	[0000] バイト型データ	
22	set	1	B	0	CMM01-B-0001	[0001] バイト型データ	
23	set	2	B	0	CMM01-B-0002	[0002] バイト型データ	
24	set	3	B	0	CMM01-B-0003	[0003] バイト型データ	
25	set	4	B	0	CMM01-B-0004	[0004] バイト型データ	
26	set	5	B	0	CMM01-B-0005	[0005] バイト型データ	
27	set	6	B	0	CMM01-B-0006	[0006] バイト型データ	

→ 項目コメント 【使用しない】

→ 表示項目名 【使用する】

→ 設定データ 【使用しない】

→ データ型 【使用する】

→ 相対アドレス 【使用する】

→ 指示 (set, separator, space)

set : メモリ設定定義
space : ブランクデータ定義
separator : 改行データ定義

※ 形式は、設定の定義と同じにしています。
そのまま、設定の定義に使用可能です。

4. 6 パターン変換定義 (パターン変換)

パターン変換定義、変換タイプについては、付属のサイトディレクトリ(CMM)の設定定義ファイル(_CMMDBG-SAMPLE.csv)の動作を確認すれば、分かり易いです。

4. 6. 1 パターン変換定義 CSV ファイル

下図に示す通り、コード値と変換値を定義します。
 パターン変換定義 CSV ファイル作成を使用すれば簡単に作成できます。
 EXCEL ファイルの詳細については、下記を参照ください。

- 4. 6. 2 パターン変換定義 CSV ファイル作成 EXCEL ファイル

C , パターン定義内容説明文字列

コード値 , 変換値

C : 先頭の文字列が *C* の場合、コメントとなります。

パターン定義内容説明文字列 : 1行目の場合、パターン定義内容説明文字列とみなします。

コード値 : データを評価した場合のマッチングのする数値を指定します。

変換値 : 評価データとコード値が一致した場合に表示する文字列を変換値として指定します。

※ コード値は、評価データの取りうる値に従って、制限されます。

例えば、*B* (バイトデータ型) の評価データの場合、0～255 の間で指定できます。

コード値=256 の定義がされているパターン変換定義ファイルを検索したとしても、一致検出されることはありません。

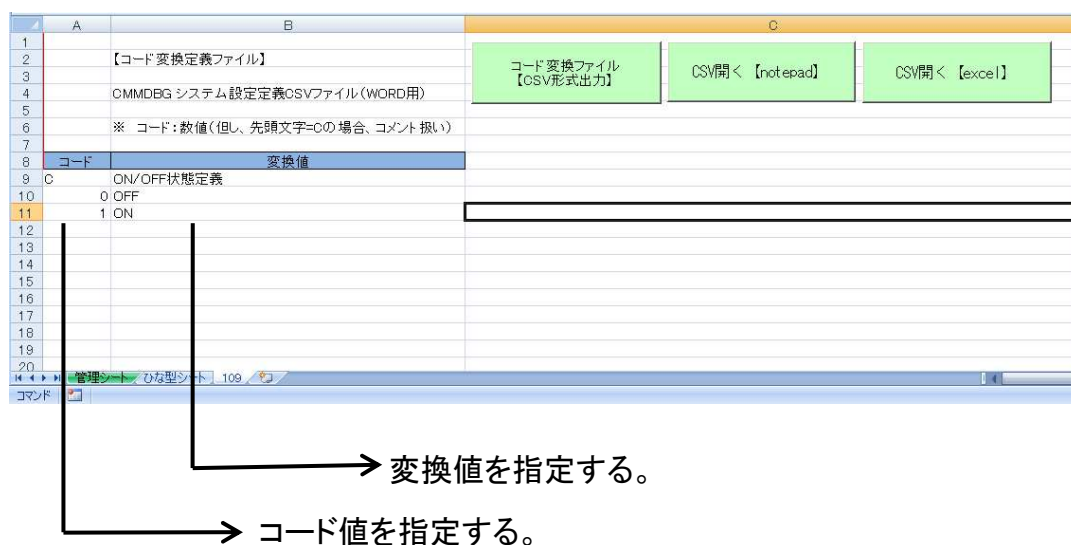
※ パターン変換定義 CSV ファイルの名称は、

CodeConversionNNN.xls

NNN は、変換 No.を示します。

4. 6. 2 パターン変換定義 CSV ファイル作成

パターン変換定義 CSV ファイルを作成するための EXCEL シートです。



※ パターン変換定義 CSV ファイルの名称は、

CodeConversionNNN.xls

NNN は、変換 No.を示します。

変換 No. (000-999)の管理は、下記のファイルで行います。

No.	パターン変換定義 CSV ファイル作成	備考
1	CodeConversionNNN【SYS-000-499】.xls	システム用
2	CodeConversionNNN【USER-500-999】.xls	ユーザ用

※ サイトディレクトリの ini フォルダ下に配置する。

※ サイトディレクトリに存在しない場合は、システムディレクトリからコピーして使用ください。

コピー後、ファイル名称の【原本】を削除してください。下記に例を示します。

CodeConversionNNN【SYS-000-499】【原本】.xls ⇒ CodeConversionNNN【SYS-000-499】.xls

4. 7 変換タイプ定義（変換タイプ）

パターン変換定義、変換タイプについては、付属のサイトディレクトリ(CMM)の設定定義ファイル(_CMMDBG-SAMPLE.csv)の動作を確認すれば、分かり易いです。

4. 7. 1 変換タイプ定義の拡張について

下記のファイルで変換タイプを管理します。

変換 No.(000-999)の管理は、下記のファイルで行います。

No.	変換タイプ管理用ファイル作成	備考
1	ConversionTYPE【SYS-000-499】.xls	システム用
2	ConversionTYPE【USER-500-999】.xls	ユーザ用

※ サイトディレクトリの ini フォルダ下に配置する。

※ サイトディレクトリに存在しない場合は、システムディレクトリからコピーして使用ください。

コピー後、ファイル名称の【原本】を削除してください。下記に例を示します。

ConversionTYPE【SYS-000-499】【原本】.xls ⇒ ConversionTYPE【SYS-000-499】.xls

変換タイプ(ユーザ用)の拡張については、上記の管理ファイルを参照してください。

4.8 システム定義

システムが使用する初期値を定義します。

4.8.1 システム INI ファイル (CMMDBG_SYS.ini)

本ファイルは、テキストエディタで変更します。

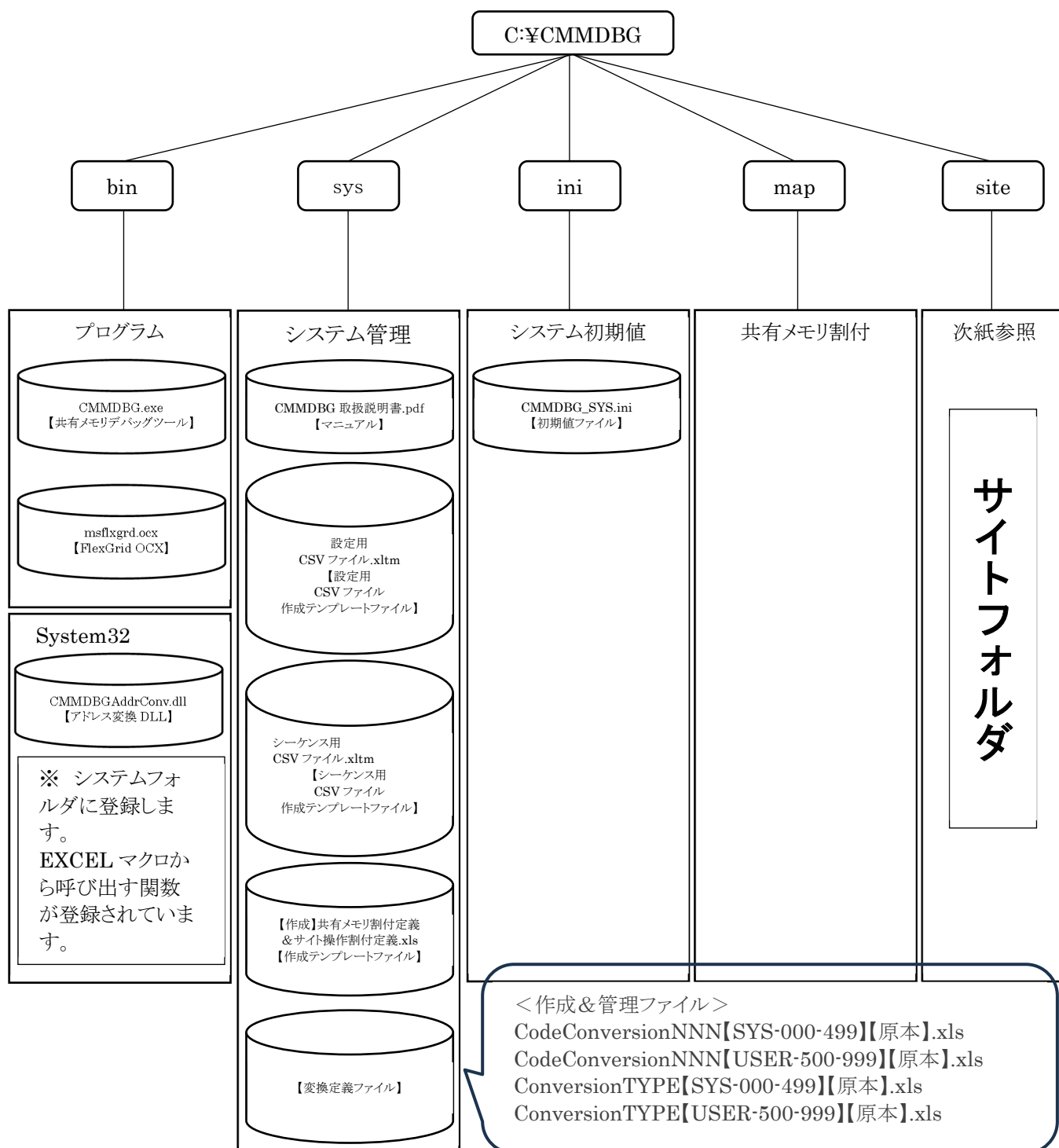
No.	指定項目	指定項目名称	指定内容
	[CMMDBG_SYS]	セクション名称【固定】	セクション名称を指定します。
1	CMM_SITE	サイト名称	サイト名称を指定します。
2	INITIAL_FILENAME	サイト操作割付定義ファイル 名称指定	初期表示時に指定するサイト操作割付定義ファイル名称を指定します。
3	TEXT_PROGNAME	テキストエディタのパス	使用するテキストエディタのパスを設定します。 本指定をしない場合は、メモ帳(notepad.exe)で開きます。
4	DISP_UP_CMD_BUTTON	シーケンス操作画面上部コマンド	シーケンス操作画面の上部にコマンド鈕を表示するかを指定します。
5	KEY_AUTOSLEEPTIME	key 文の待ち時間指定	シーケンス実行時の key 文待ち時間を指定します。 デフォルトは、3000ms です。
6	SYSTEM_MNGOPE	システム管理操作鈕を常に有効	システム管理操作鈕は、共有メモリ割付時に無効にすることができます。 開発時などの場合に、常に有効にしておきたいときに指定します。 =1 : 常に有効

5. ファイル／フォルダ構成

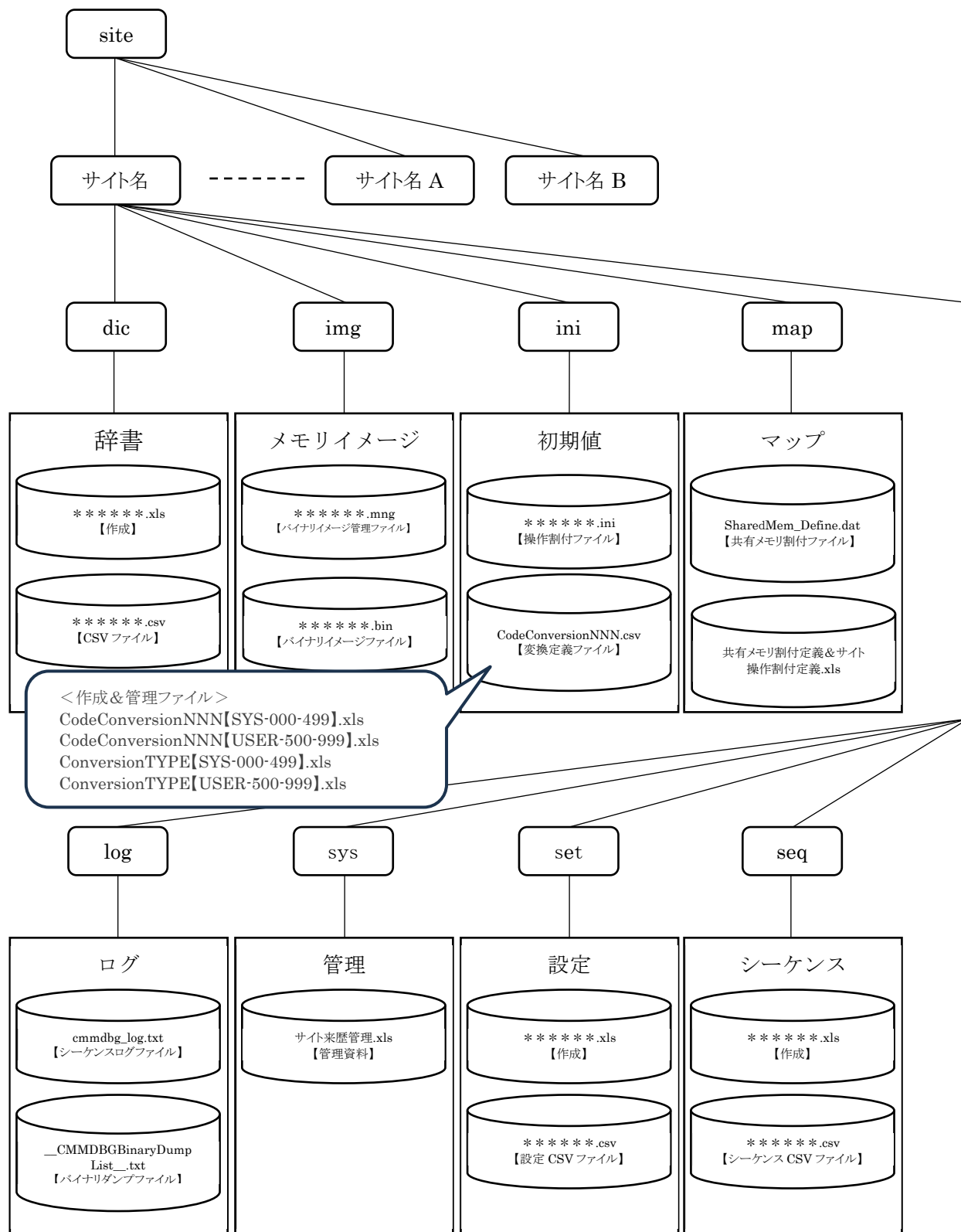
5.1 フォルダ構成

CMMDBG のフォルダ構成は、下記の通りです。

CMMDBG をインストールするディレクトリは、C:\CMMDBG（固定）です。



site フォルダの構成



5.2 ファイル構成

CMMDBG のファイルの一覧を下表に示す。

No.	ファイル	ファイル名称	ファイル内容
C:\¥CMMDBG¥bin		プログラムフォルダ	
1	CMMDBG.exe	共有メモリデバッグツール	共有メモリデバッグツールプログラム
2	CMMDBGAddrConv.dll	アドレス変換 DLL	辞書定義情報を検索し、アドレス、データ型を取得する関数 Windows のシステムフォルダ(system32)にインストールされます。
3	Msflxgrd.ocx	FlexGrid.ocx	フレックスグリッド
C:\¥CMMDBG¥sys		システム管理フォルダ	
1	CMMDBG 取扱説明書.pdf	CMMDBG 取扱説明書	取扱説明書です。
2	共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義【原本】.xls	共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義【原本】	共有メモリ割付定義&サイト操作割付定義 EXCEL ファイルです。
3	サイト来歴管理【原本】.xls	サイト来歴管理【原本】	サイトを新規作成した場合に作成するサイト来歴管理の元ファイルです。
4	設定定義&辞書定義 CSV ファイル作成【原本】.xls	設定定義&辞書定義 CSV ファイル作成【原本】	設定定義&辞書定義 CSV ファイルを作成するための雛型ファイルです。
5	シーケンス定義 CSV ファイル作成【原本】.xls	シーケンス定義 CSV ファイル作成【原本】	シーケンス定義 CSV ファイルを作成するための雛型ファイルです。
6	_CMMDBG-BIT【原本】.csv	_CMMDBG-BIT【原本】	データ型 BIT 参照用の設定定義 CSV ファイルです。 サイトの新規作成時にはシステムデフォルトの設定定義 CSV ファイルとして設定フォルダにコピーします。
7	_CMMDBG-BIT【原本】.xls	_CMMDBG-BIT【原本】	
8	_CMMDBG-BYTE【原本】.csv	_CMMDBG-BYTE【原本】	データ型 BYTE 参照用の設定定義 CSV ファイルです。
9	_CMMDBG-BYTE【原本】.xls	_CMMDBG-BYTE【原本】	
10	_CMMDBG-WORD【原本】.csv	_CMMDBG-WORD【原本】	データ型 WORD 参照用の設定定義 CSV ファイルです。
11	_CMMDBG-WORD【原本】.xls	_CMMDBG-WORD【原本】	
12	_CMMDBG-LONG【原本】.csv	_CMMDBG-LONG【原本】	データ型 LONG 参照用の設定定義 CSV ファイルです。
13	_CMMDBG-LONG【原本】.xls	_CMMDBG-LONG【原本】	

No.	ファイル	ファイル名称	ファイル内容
C:\CMMDBG\ini		システム初期値フォルダ	
1	CMMDBG_SYS.ini	システム INI ファイル	システム用の初期設定ファイルです。
C:\CMMDBG\map		共有メモリ割付フォルダ	
1	CMMDBG 共有メモリ割付定義.xls	共有メモリ割付定義ファイル	共有メモリ割付定義 EXCEL ファイルです。 このファイルでサイトの共有メモリ割付を EXCEL シート毎に行います。
C:\CMMDBG\site		サイトフォルダ	
1	サイト名称	任意のサイト名称	サイト名称をフォルダ名称とします。 当該サイトの情報はこのフォルダ下で管理します。
C:\CMMDBG\site\%サイト名称%\dic		辞書フォルダ	
		辞書定義 CSV ファイル	シーケンス定義 CSV ファイルを作成する場合に、直接アドレス、データ型を指定するのではなく、あらかじめ辞書定義ファイルに定義することで、定義した項目名称を使用することができるようになります。
C:\CMMDBG\site\%サイト名称%\img		共有メモリイメージフォルダ	
		共有メモリイメージデータファイル	共有メモリイメージデータを格納するファイルです。
C:\CMMDBG\site\%サイト名称%\ini		初期値フォルダ	
		サイト操作割付定義ファイル	サイト操作割付定義ファイルを管理するフォルダです。 サイト操作割付定義 EXCEL ファイルで作成します。 このファイルでサイト操作割付を EXCEL シート毎に行います。
C:\CMMDBG\site\%サイト名称%\map		マップフォルダ	
		共有メモリ割付定義ファイル	当該サイトの共有メモリ割付定義ファイル(バイナリ)と 共有メモリ割付定義 & サイト操作割付定義ファイル.xls を格納するフォルダです。
C:\CMMDBG\site\%サイト名称%\log		ログファイルフォルダ	
		シーケンスログファイル	シーケンス実行結果は、シーケンス実行時には常時格納されますので、del 卸でクリア後、取得開始してください。
		バイナリダンプファイル	共有メモリイメージデータを共有メモリを指定して、テーブルの全ダンプリストファイルです。

No.	ファイル	ファイル名称	ファイル内容
	C:\CMMDBG\site\サイト名称\sys	システムフォルダ	
		サイト来歴管理ファイル	サイト来歴管理 EXCEL ファイルにより、当該サイト内で管理しているデータについての説明など、サイトに関する情報を記載しておきます。
	C:\CMMDBG\site\サイト名称\set	設定フォルダ	
		設定定義 CSV ファイル	設定定義 EXCEL ファイルとそのファイルから作成した設定定義 CSV ファイルを管理するフォルダです。
	C:\CMMDBG\site\サイト名称\seq	シーケンスフォルダ	
		シーケンス定義 CSV ファイル	シーケンス定義 EXCEL ファイルとそのファイルから作成したシーケンス定義 CSV ファイルを管理するフォルダです。

6. 困った時の対処方法

No.	現象	対処方法	備考
1	EXCEL のバージョン	EXCEL ファイルは、97－2003形式のファイルで作成しています。	
2	ツールに関する問い合わせ	不具合や質問などありましたら、下記メールアドレスに問い合わせてください。 メールのタイトルの最初は、【CMMDBG】で始まるようにしてください。 tom-shiono@ibc-web.co.jp	